

地域福祉に関するアンケート調査結果報告書
(2 月中間報告)

令和 5 年 3 月
西東京市

委員各位

本資料は、全設問の単純集計と説明文を記載した「中間報告」となります。

今後、「最終報告」に向けて以下を追加する予定です。（前回報告書（平成 30 年 3 月）と同様）

①クロス集計表

全設問で、

- 男女別（※「回答しない」は少数のため、クロス表に掲載しない予定）
 - 年齢別
 - 4 圏域別
- を予定。

また、設問によっては「家族類型」なども適宜追加する予定。

（検討中）クロス集計に用いる家族類型の例（一定数いることが条件）

区分	集計項目	想定できるデータ
ひとり	独居（39 歳以下）	
ひとり	壮年独居（40～64 歳）	おひとり様
ひとり	高齢者独居（65 歳以上）	高齢独居
同居	夫婦のみ（自分 64 歳以下）	
同居	高齢者夫婦のみ（自分 65 歳以上）	老老介護が含まれる可能性
二世帯	子と同居夫婦（自分 64 歳以下）	
二世帯	親と同居夫婦（自分 64 歳以下）	親の介護が含まれる可能性
二世帯	ひとり親（自分 40 代以下と子）	母子父子家庭
二世帯	壮年一人（40～64 歳）と親	ひきこもり、ニートが含まれる可能性
三世帯	自分と他の二世帯	

②前回結果との比較表

③自由意見（全意見は量が多くなるため、意見をカテゴリ化し、カテゴリ毎の件数と 3 件程度の意見を掲載予定）

※また、報告書とは別に、計画の検討資料として、調査結果からみる市民の特徴及び地域福祉推進における課題（考察）を作成する予定です。

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査設計	1
3.	回収結果	1
4.	報告書の見方	2
5.	標本誤差	3
II	市民調査結果	4
1.	あなた（ご本人）のことについて	4
2.	近所付き合いや地域の暮らしについて	9
3.	地域での活動について	24
4.	福祉について	28
5.	「ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）」について	41
6.	これからの取組について	42
III	民生委員・児童委員調査結果	50
1.	活動について	50
2.	担当地区について	53
3.	福祉について	59
4.	「ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）」について	67
5.	これからの取組について	68
IV	経年比較	74
1.	一般市民	74
2.	民生委員・児童委員	74

(白紙ページ)

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、令和5年度に「第5期地域福祉計画」を策定するにあたり、市民並びに民生委員・児童委員の皆様から、近所付き合いやボランティア活動、地域福祉活動等に関する状況や意向などをお聞きし、今後の計画策定に反映するために実施しました。

2. 調査設計

種類	①一般市民	②民生委員・児童委員
対象	市内在住の18歳以上市民より無作為抽出	全民生委員・児童委員
配付・回収	調査票の郵送配付、郵送回収 調査票の郵送回答／専用WEBサイトからインターネット回答（回答者選択）	調査票の郵送配付、郵送回収 調査票の郵送回答／専用WEBサイトからインターネット回答（回答者選択）
調査期間	令和4年12月14日～12月28日	令和4年11月25日～12月28日

3. 回収結果

種類	①一般市民	②民生委員・児童委員	合計
配付	2,500件	146件	2,646件
回収	1,020件 (郵送785件) (WEB235件)	130件 (郵送115件) (WEB15件)	1,150件 (郵送900件) (WEB250件)
回収率	40.8%	89.0%	43.5%

<①一般市民：配付数に対する回収率>

区分	配付数 (件)	回収数 (件)	回収率 (%)
男性	1,223	429	35.1
女性	1,277	562	44.0
18～29 歳	380	62	16.3
30～39 歳	349	123	35.2
40～49 歳	435	169	38.9
50～59 歳	461	200	43.4
60～69 歳	324	165	50.9
70 歳以上	551	287	52.1

区分	配付数 (件)	回収数 (件)	回収率 (%)	区分	配付数 (件)	回収数 (件)	回収率 (%)
田無町	169	56	33.1	保谷町	152	54	35.5
南町	154	71	46.1	富士町	141	53	37.6
西原町	85	35	41.2	中町	92	41	44.6
緑町	45	16	35.6	東町	106	43	40.6
谷戸町	170	83	48.8	泉町	108	34	31.5
北原町	53	20	37.7	住吉町	87	40	46.0
向台町	179	74	41.3	ひばりが丘	121	55	45.5
芝久保町	246	92	37.4	ひばりが丘北	58	20	34.5
新町	108	55	50.9	栄町	53	20	37.7
柳沢	138	49	35.5	北町	71	21	29.6
東伏見	61	33	54.1	下保谷	103	40	38.8

4. 報告書の見方

- 図表の「n (number of case)」は、質問項目に対する回答者数を表しています。
- 回答比率は百分率 (%) で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出するため、合計が 100.0%にならない場合があります。
- 質問項目に (○は 3つ) などがある場合は、1 人の回答者が複数の選択肢に回答することができる質問であるため、すべての回答比率を合計すると 100.0%を超えます。
- クロス集計の表やグラフでは分析軸となる設問に「無回答」がある場合は表示しておらず、分析軸の n (回答者数) の合計が全体の合計と一致しない場合があります。

5. 標本誤差

本調査の結果は、調査対象となる母集団（全市民）から一部の方を抽出して実施した調査（標本調査）であるため、対象となる母集団（18歳以上の市民）に当てはめる際、若干の誤差（標本誤差）が生じる可能性があります。

この誤差は、選択肢の回答割合ごとに異なるもので、詳細は下表のとおりです。表の見方は、「全体」のグラフで、一つの選択肢に対し、回答が「50%前後」であった場合、その回答の母集団に対する誤差の範囲は「±3.1%」、つまり、50%の回答を母集団に当てはめると53.1～46.9%の可能性が推定されるとみます。

属性毎で誤差は異なります。全体並びに性別と比較すると、年齢別の誤差が大きくなるため、調査結果の取り扱いに留意が必要です。

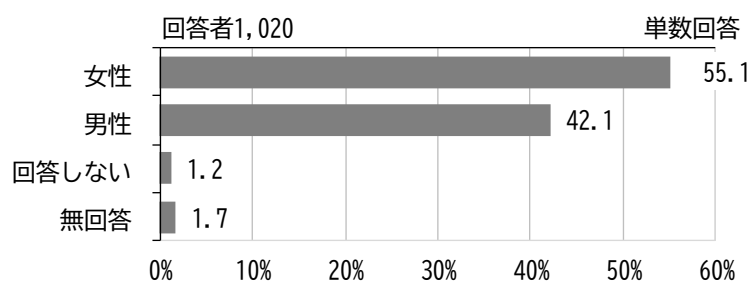
	標本数 (回収数) (件)	99%または 1%前後	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
全体	1,020	0.6%	1.8%	2.4%	2.8%	3.0%	3.1%
男性	429	0.9%	2.8%	3.8%	4.3%	4.6%	4.7%
女性	562	0.8%	2.5%	3.3%	3.8%	4.0%	4.1%
18～29歳	62	2.5%	7.5%	9.9%	11.4%	12.2%	12.4%
30～39歳	123	1.8%	5.3%	7.1%	8.1%	8.6%	8.8%
40～49歳	169	1.5%	4.5%	6.0%	6.9%	7.4%	7.5%
50～59歳	200	1.4%	4.1%	5.5%	6.3%	6.8%	6.9%
60～64歳	98	2.0%	5.9%	7.9%	9.0%	9.7%	9.9%
65～69歳	67	2.4%	7.2%	9.5%	10.9%	11.7%	11.9%
70～74歳	97	2.0%	5.9%	7.9%	9.1%	9.7%	9.9%
75～79歳	74	2.3%	6.8%	9.1%	10.4%	11.1%	11.3%
80歳以上	116	1.8%	5.4%	7.3%	8.3%	8.9%	9.1%

Ⅱ 市民調査結果

1. あなた（ご本人）のことについて

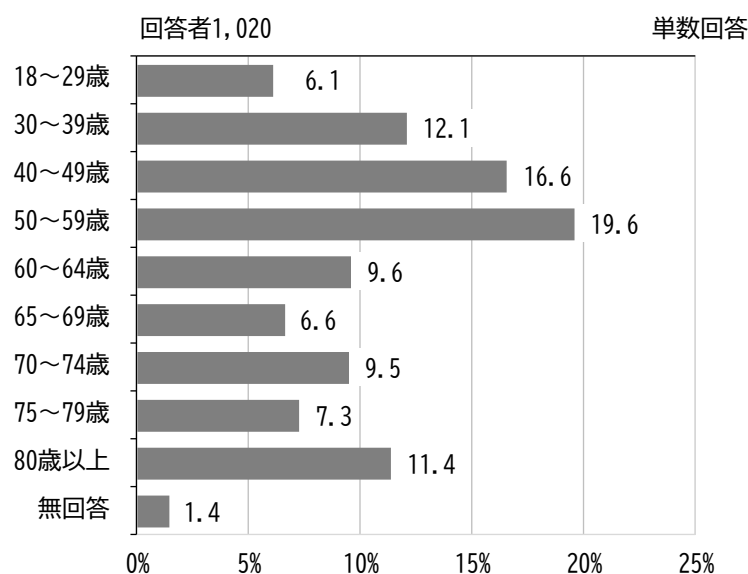
問1 性別を教えてください。（1つに○）

性別について、「女性」（55.1%）が最も多く、ついで「男性」（42.1%）、「回答しない」（1.2%）となっています。



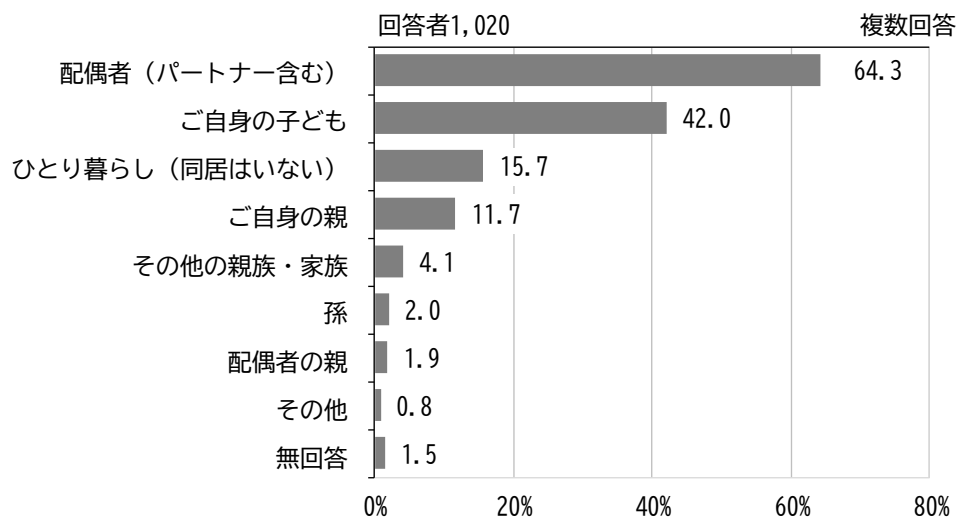
問2 年齢を教えてください。（1つに○）（令和4年9月1日現在）

年齢について、「50～59歳」（19.6%）が最も多く、ついで「40～49歳」（16.6%）、「30～39歳」（12.1%）となっています。



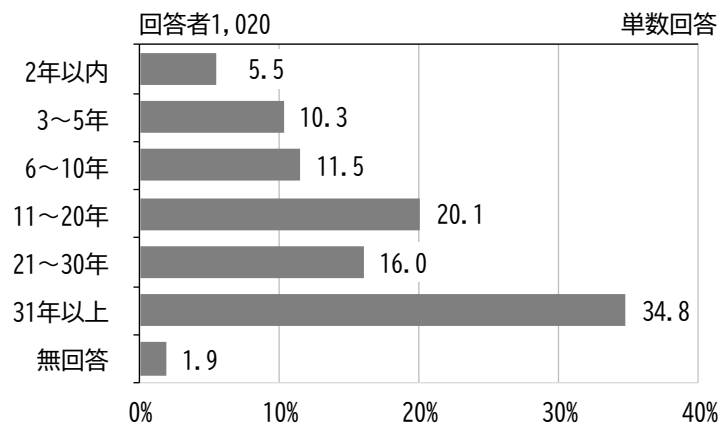
問3 同居している方を教えてください。(いくつでも○)

同居している方について、「配偶者（パートナー含む）」(64.3%) が最も多く、ついで「ご自身の子ども」(42.0%)、「ひとり暮らし（同居はいない）」(15.6%) となっています。



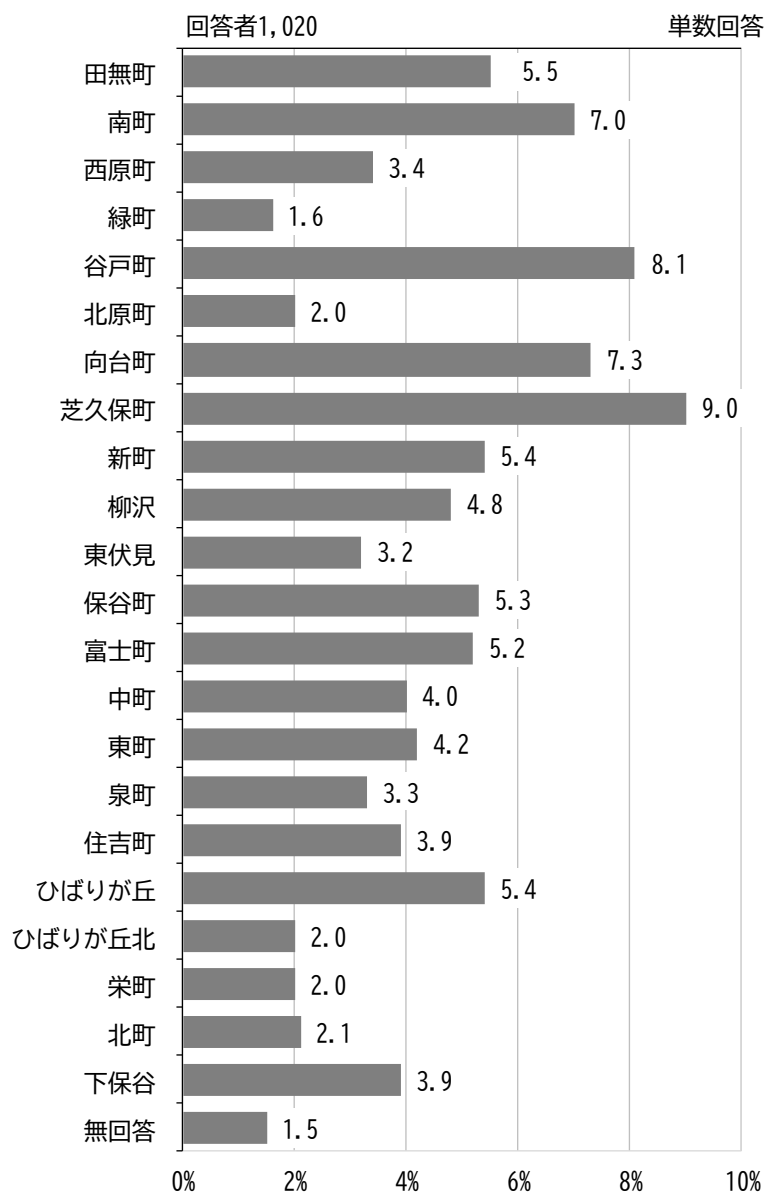
問4 市内での居住年数（市外への転居期間を除く通算年数）を教えてください。（1つに○）

市内での居住年数（市外への転居期間を除く通算年数）について、「31年以上」（34.8%）が最も多く、ついで「11～20年」（20.1%）、「21～30年」（16.0%）となっています。



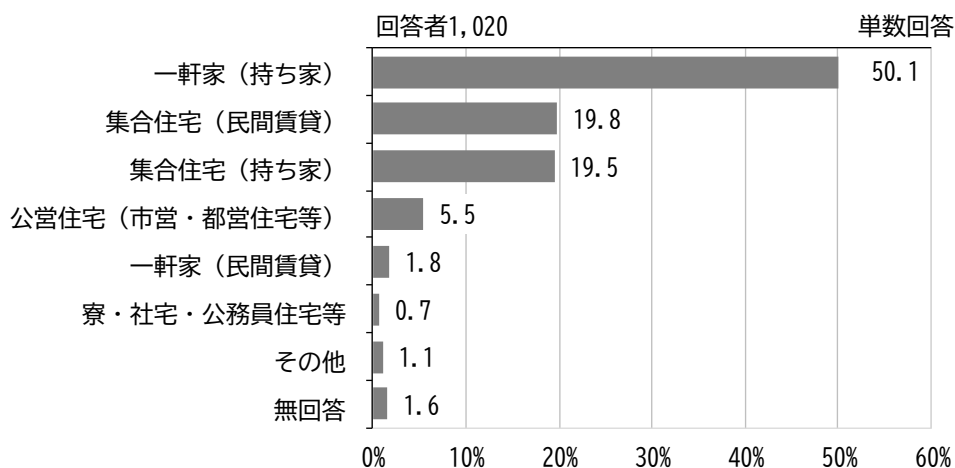
問5 現在、お住まいの地区を教えてください。(1つに○)

現在、お住まいの地区について、「芝久保町」(9.0%)が最も多く、ついで「谷戸町」(8.1%)、「向台町」(7.3%)となっています。



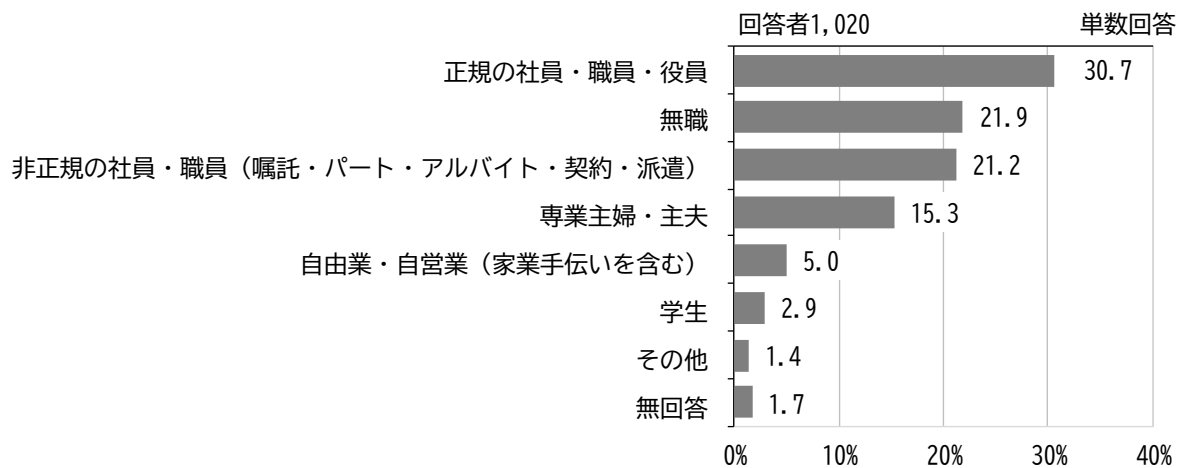
問6 現在の住居形態を教えてください。(1つに○)

現在の住居形態について、「一軒家（持ち家）」(50.1%) が最も多く、ついで「集合住宅（民間賃貸）」(19.8%)、「集合住宅（持ち家）」(19.5%) となっています。



問7 現在の職業を教えてください。(1つに○)

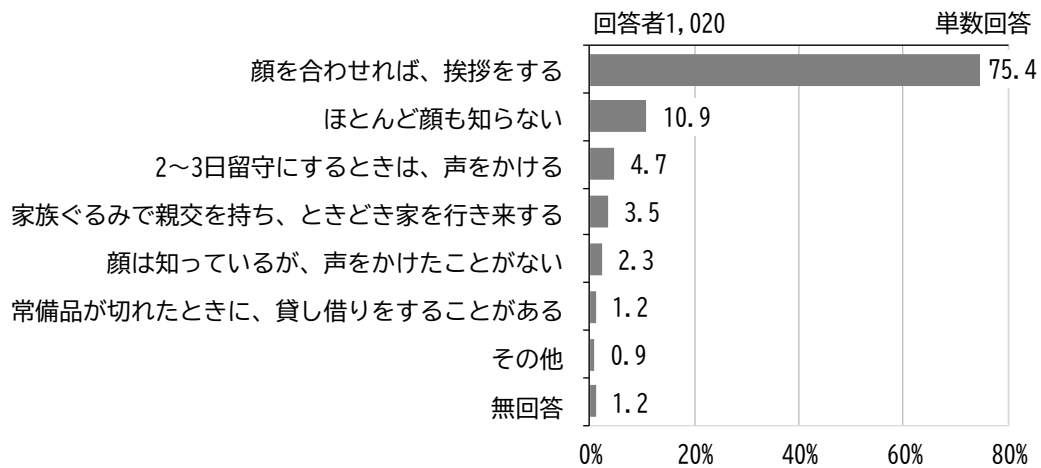
現在の職業について、「正規の社員・職員・役員」(30.7%) が最も多く、ついで「無職」(21.9%)、「非正規の社員・職員（嘱託・パート・アルバイト・契約・派遣）」(21.2%) となっています。



2. 近所付き合いや地域の暮らしについて

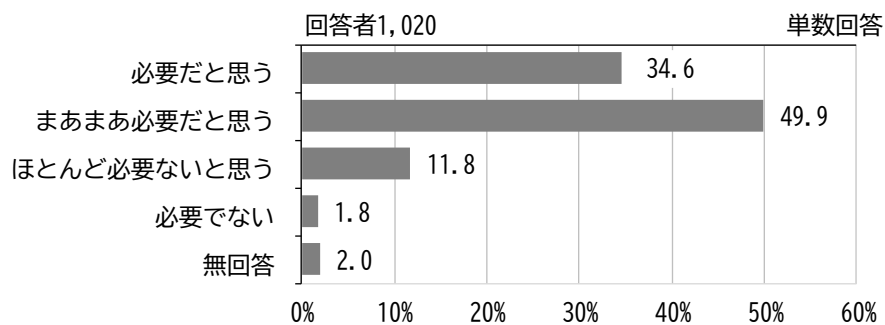
問8 ふだん、近所の方と、どの程度のお付き合いをしていますか。(主なもの1つに○)

ふだん、近所の方と、どの程度のお付き合いについて、「顔を合わせれば、挨拶をする」(75.4%)が最も多く、ついで「ほとんど顔も知らない」(10.9%)、「2~3日留守にするときは、声をかける」(4.7%)となっています。



問9 あなたは、地域での人との付き合いや関わりが必要だと考えますか。(1つに○)

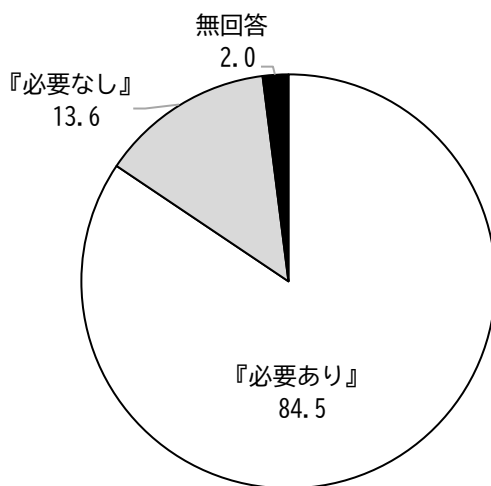
地域での人との付き合いや関わりが必要だとするかについて、「まあまあ必要だと思う」(49.9%)が最も多く、ついで「必要だと思う」(34.6%)、「ほとんど必要ないと思う」(11.8%)となっています。



『必要あり』(「必要だと思う」+「まあまあ必要だと思う」の合計)と『必要なし』(「ほとんど必要ないと思う」+「必要でない」の合計)でみると、『必要あり』(84.5%)、『必要なし』(13.6%)となっています。

回答者1,020

単数回答



単位 (%)

付問 《問9で「必要だと思う」または「まあまあ必要だと思う」とお答えの方におたずねします》

どのようなときに、地域との関わりの必要性を感じますか。【選択欄】から3つまで選んで、最も必要な順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

地域との関わりの必要性を感じる場面について、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「災害が発生したニュースや災害時に地域の人々が助け合うニュースを聞いたとき」(37.7%)が最も多く、ついで「高齢者の孤独死や虐待、火災からの逃げ遅れなどを聞いたとき」(13.9%)、「近所の人に気軽に相談したいと思ったとき」(13.8%)となっています。

2位は「近所で不審者や犯罪の被害を聞いたとき」(23.2%)が最も多く、ついで「災害が発生したニュースや災害時に地域の人々が助け合うニュースを聞いたとき」(19.4%)、「高齢者の孤独死や虐待、火災からの逃げ遅れなどを聞いたとき」(16.9%)となっています。

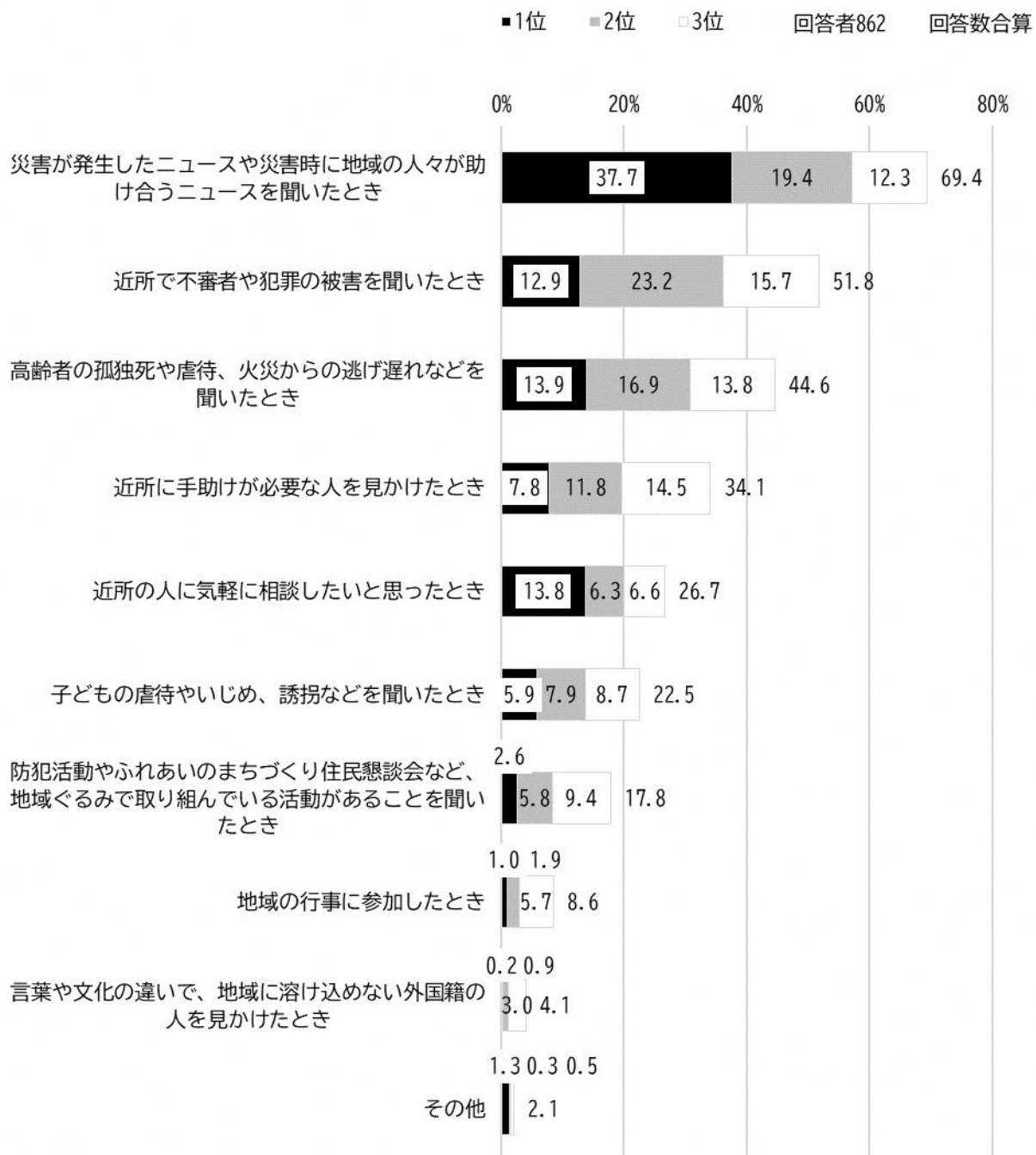
3位は「近所で不審者や犯罪の被害を聞いたとき」(15.7%)が最も多く、ついで「近所に手助けが必要な人を見かけたとき」(14.5%)、「高齢者の孤独死や虐待、火災からの逃げ遅れなどを聞いたとき」(13.8%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	災害が発生したニュースや災害時に地域の人々が助け合うニュースを聞いたとき (37.7)	近所で不審者や犯罪の被害を聞いたとき (23.2)	近所で不審者や犯罪の被害を聞いたとき (15.7)
2番目に多い回答	高齢者の孤独死や虐待、火災からの逃げ遅れなどを聞いたとき (13.9)	災害が発生したニュースや災害時に地域の人々が助け合うニュースを聞いたとき (19.4)	近所に手助けが必要な人を見かけたとき (14.5)
3番目に多い回答	近所の人に気軽に相談したいと思ったとき (13.8)	高齢者の孤独死や虐待、火災からの逃げ遅れなどを聞いたとき (16.9)	高齢者の孤独死や虐待、火災からの逃げ遅れなどを聞いたとき (13.8)

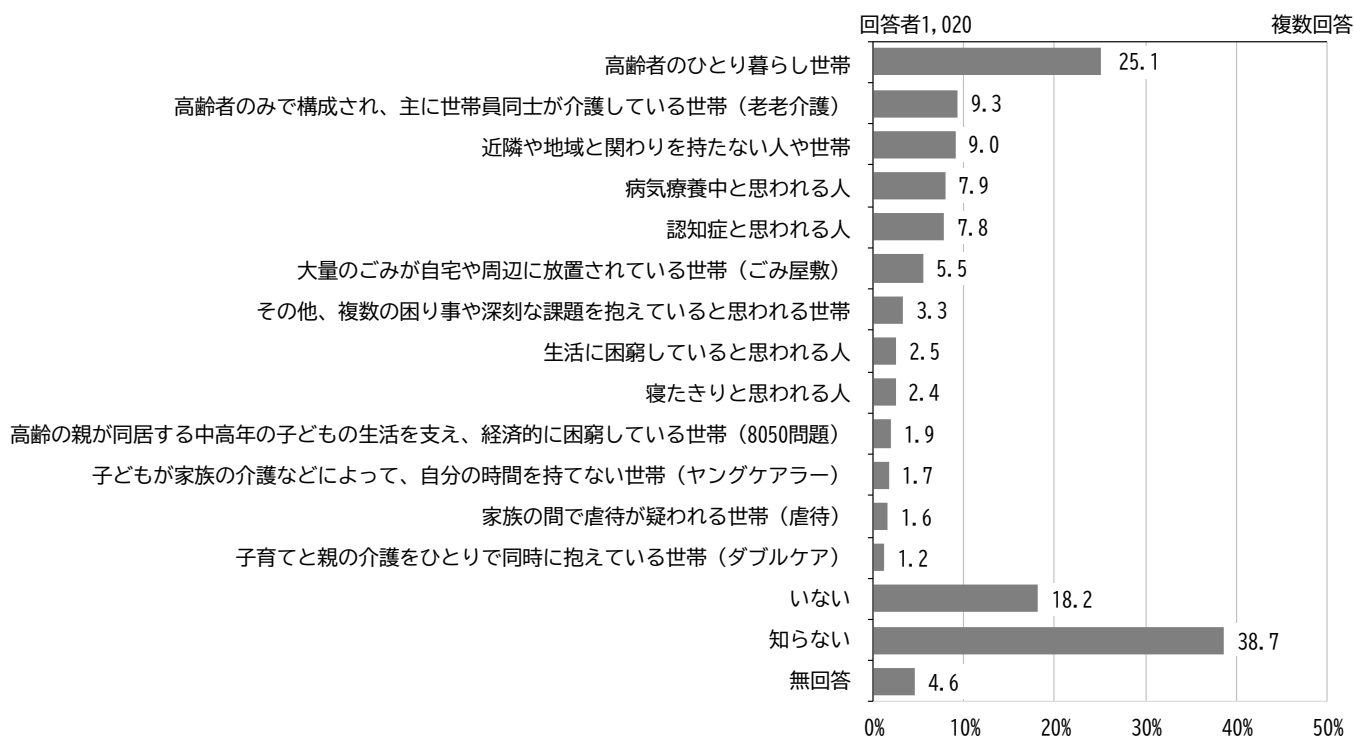
<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「災害が発生したニュースや災害時に地域の人々が助け合うニュースを聞いたとき」(69.4%)が最も多く、ついで「近所で不審者や犯罪の被害を聞いたとき」(51.8%)、「高齢者の孤独死や虐待、火災からの逃げ遅れなどを聞いたとき」(44.6%)となっています。



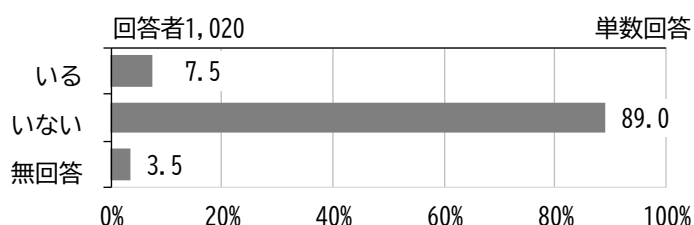
問10 ご自宅や近所に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。(いくつでも○)

ご自宅や近所に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。について、「知らない」(38.7%)が最も多く、ついで「高齢者のひとり暮らし世帯」(25.1%)、「いない」(18.2%)となっています。



問11 自分自身、ご家族、近所の方、市内に住む親戚・友人などの中に、「ひきこもり」の状態に当てはまる人がいますか。(1つに○)

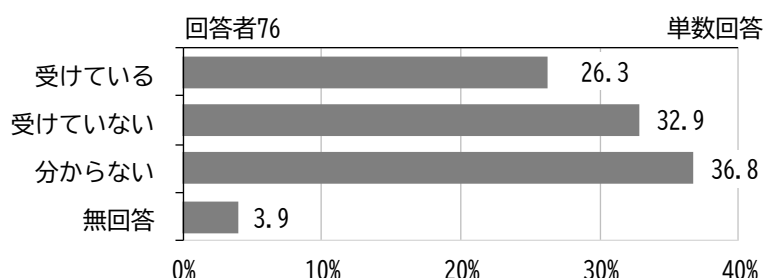
自分自身、ご家族、近所の方、市内に住む親戚・友人などの中に、「ひきこもり」の状態に当てはまる人について、「いない」(89.0%)が最も多く、ついで「いる」(7.5%)、「無回答」(3.5%)となっています。



付問① 《問11で「いる」とお答えの方におたずねします》

現在、何らかの社会的な支援を受けていますか。(1つに○)

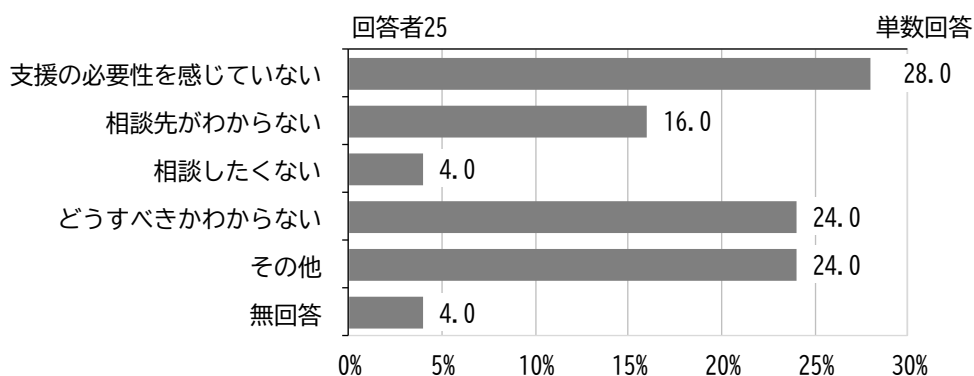
「ひきこもり」の状態に当てはまる人がいると回答した方に、その本人は何らかの社会的な支援を受けているかを聞いたところ、「分からない」(36.8%)が最も多く、ついで「受けていない」(32.9%)、「受けている」(26.3%)となっています。



付問② 《付問①で「受けていない」とお答えの方におたずねします》

何らかの社会的な支援を受けていない主な理由は何ですか。(1つに○)

「ひきこもり」の状態に当てはまる人が社会的な支援を「受けていない」と回答した方に、社会的な支援を受けていない主な理由を聞いたところ、「支援の必要性を感じていない」(28.0%)が最も多く、ついで「どうすべきかわからない」(24.0%)、「その他」(24.0%)となっています。



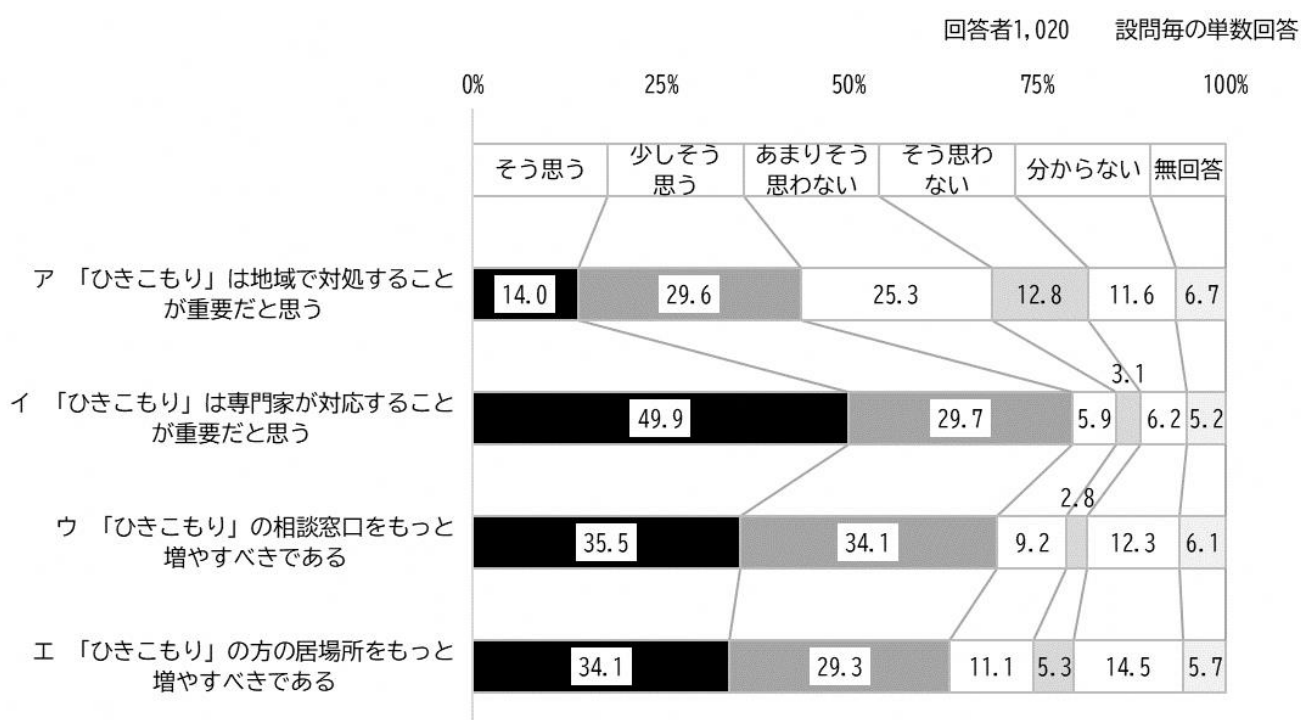
問12 「ひきこもり」について、どのように考えていますか。(それぞれ1つに○)

ア 「ひきこもり」に地域で対処することが重要だと思うについて、「少しそう思う」(29.6%)が最も多く、ついで「あまりそう思わない」(25.3%)、「そう思う」(14%)となっています。

イ 「ひきこもり」に専門家が対応することが重要だと思うについて、「そう思う」(49.9%)が最も多く、ついで「少しそう思う」(29.7%)、「分からない」(6.2%)となっています。

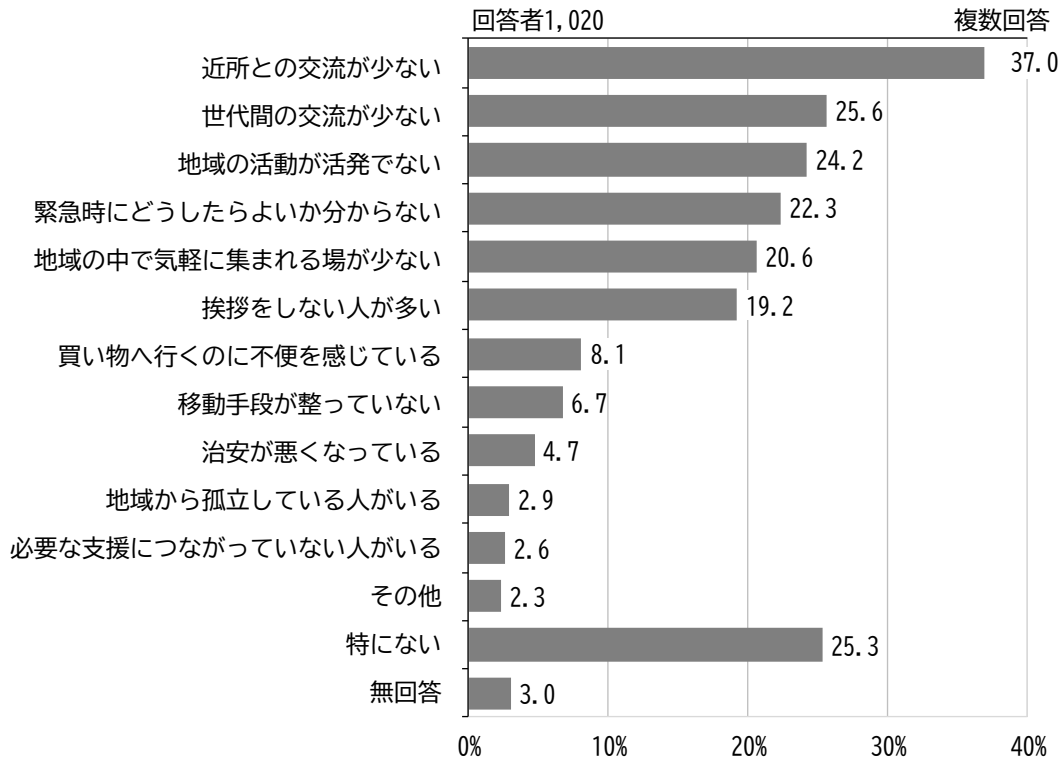
ウ 「ひきこもり」の相談窓口をもっと増やすべきであるについて、「そう思う」(35.5%)が最も多く、ついで「少しそう思う」(34.1%)、「分からない」(12.3%)となっています。

エ 「ひきこもり」の方の居場所をもっと増やすべきであるについて、「そう思う」(34.1%)が最も多く、ついで「少しそう思う」(29.3%)、「分からない」(14.5%)となっています。



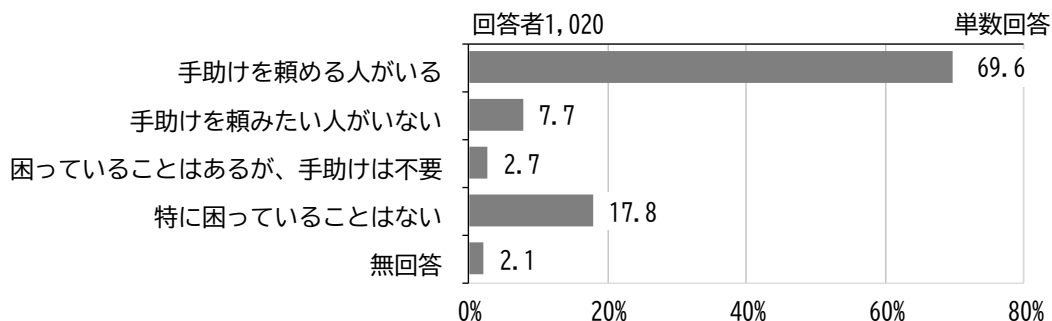
問13 お住まいの地域に次のようなことを感じていますか。(いくつでも○)

お住まいの地域に次のようなことを感じてるかについて、「近所との交流が少ない」(37.0%)が最も多く、ついで「世代間の交流が少ない」(25.6%)、「特にない」(25.3%)となっています。



問14 日常生活で困ったときに、手助けを頼める人がいますか(家族・親族を含む)。(1つに○)

日常生活で困ったときに、手助けを頼める人がいるか(家族・親族を含む)について、「手助けを頼める人がいる」(69.6%)が最も多く、ついで「特に困っていることはない」(17.8%)、「手助けを頼みたい人がいない」(7.7%)となっています。



問15 もし、あなたが高齢・障害や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちに手伝ってほしいことはありますか。【選択欄】から3つまで選んで、最も手伝って欲しい順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

高齢・障害や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちに手伝ってほしい場面について、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「急病時の対応」(16.7%)が最も多く、ついで「安否確認の見守り、声かけ」(16.4%)、「災害時の手助け」(14.8%)となっています。

2位は「急病時の対応」(19.0%)が最も多く、ついで「災害時の手助け」(16.4%)、「安否確認の見守り、声かけ」(7.8%)となっています。

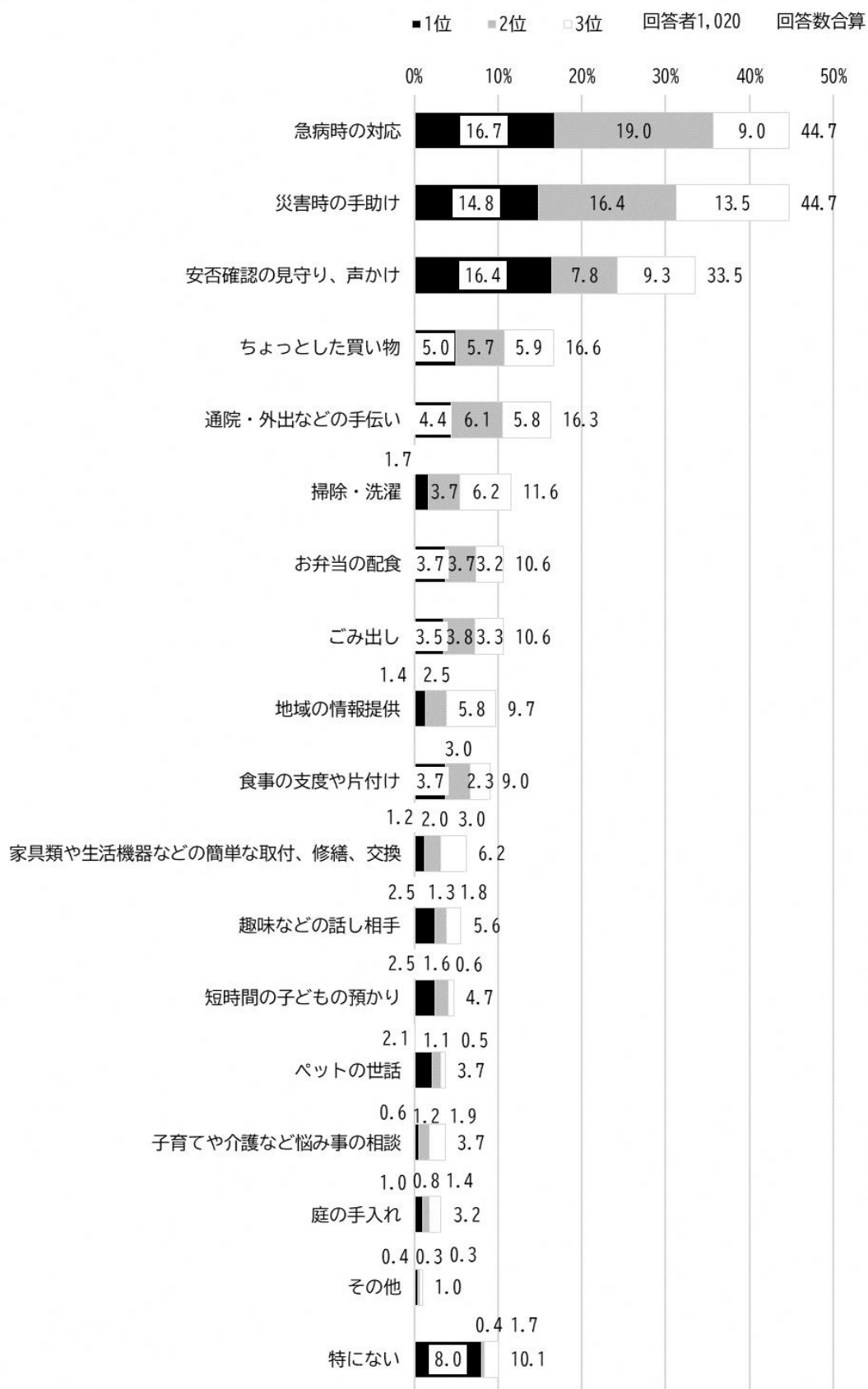
3位は「災害時の手助け」(13.5%)が最も多く、ついで「安否確認の見守り、声かけ」(9.3%)、「急病時の対応」(9.0%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	急病時の対応 (16.7)	急病時の対応 (19.0)	災害時の手助け (13.5)
2番目に多い回答	安否確認の見守り、声かけ (16.4)	災害時の手助け (16.4)	安否確認の見守り、声かけ (9.3)
3番目に多い回答	災害時の手助け (14.8)	安否確認の見守り、声かけ (7.8)	急病時の対応 (9.0)

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「急病時の対応」(44.7%)と「災害時の手助け」(44.7%)が最も多く、ついで「安否確認の見守り、声かけ」(33.5%)となっています。



問16 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすために、あなた自身にできることはありますか。【選択欄】から3つまで選んで、最もできる順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

高齢・障害や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちに手伝ってほしい場面について、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「安否確認の見守り、声かけ」(27.3%)が最も多く、ついで「災害時の手助け」(13.4%)、「特にない」(11.3%)となっています。

2位は「ちょっとした買い物」(13.0%)が最も多く、ついで「安否確認の見守り、声かけ」(11.3%)、「災害時の手助け」(10.2%)となっています。

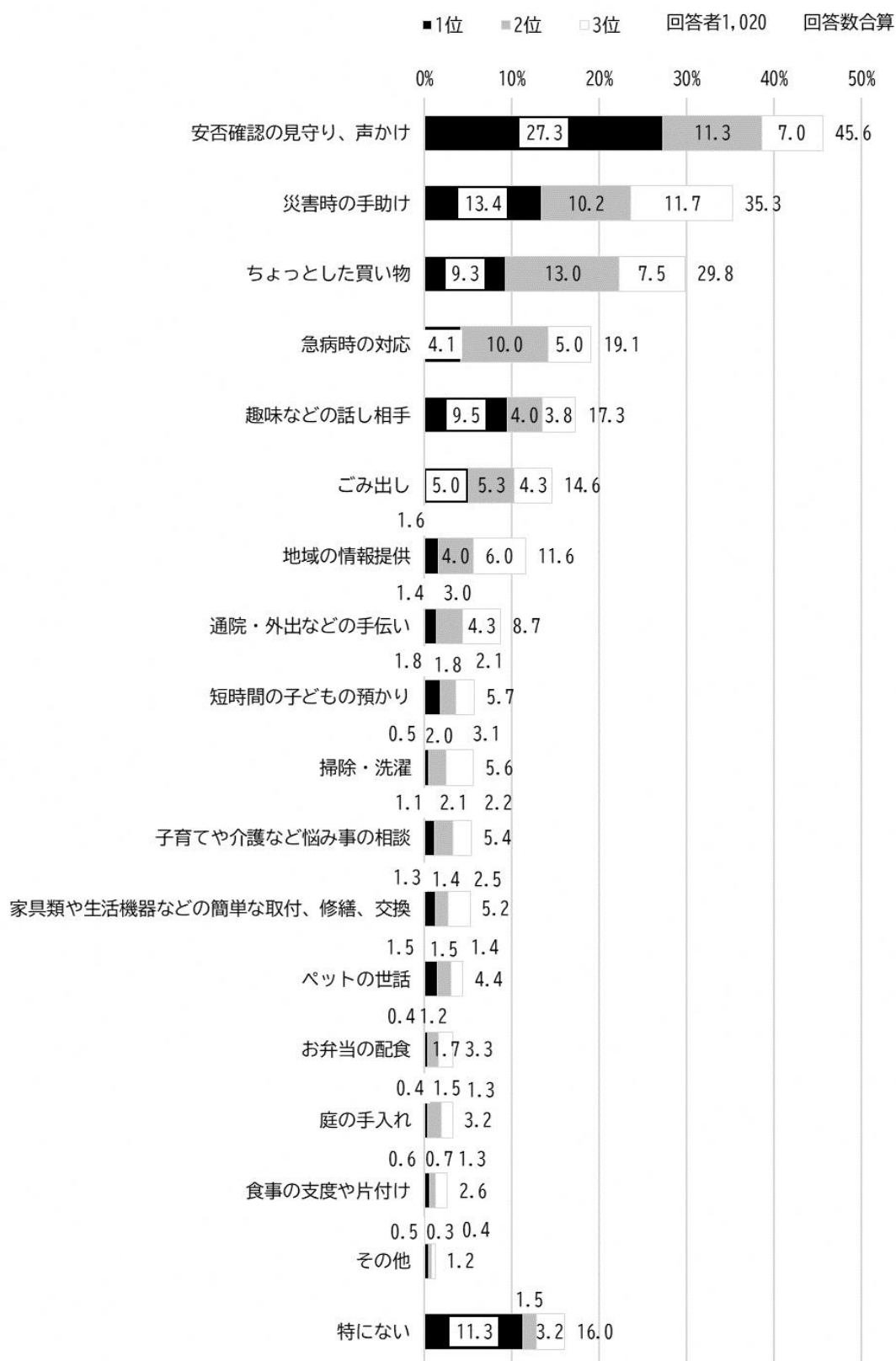
3位は「災害時の手助け」(11.7%)が最も多く、ついで「ちょっとした買い物」(7.5%)、「安否確認の見守り、声かけ」(7.0%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	安否確認の見守り、声かけ (27.3)	ちょっとした買い物 (13.0)	災害時の手助け (11.7)
2番目に多い回答	災害時の手助け (13.4)	安否確認の見守り、声かけ (11.3)	ちょっとした買い物 (7.5)
3番目に多い回答	特にない (11.3)	災害時の手助け (10.2)	安否確認の見守り、声かけ (7.0)

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「災害時の手助け」（45.6%）が最も多く、ついで「食事の支度や片付け」（35.3%）、「ごみ出し」（29.8%）となっています。



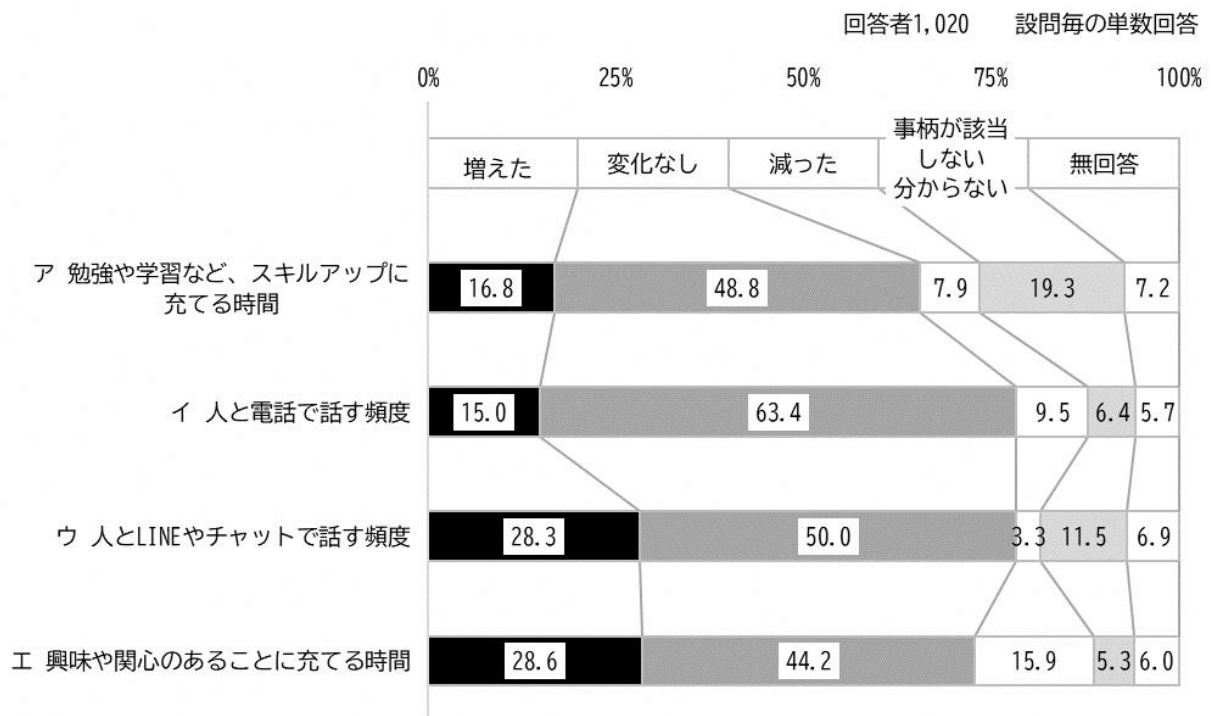
問17 新型コロナウイルス感染症の流行により、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか（影響があった時期は問いません）。（それぞれ1つに○）

新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしへの影響は、ア 勉強や学習など、スキルアップに充てる時間について、「変化なし」（48.8%）が最も多く、ついで「増えた」（16.8%）、「減った」（7.9%）となっています（「事柄が該当しない 分からない」を除く）。

イ 人と電話で話す頻度について、「変化なし」（63.4%）が最も多く、ついで「増えた」（15.0%）、「減った」（9.5%）となっています。

ウ 人とLINEやチャットで話す頻度について、「変化なし」（50.0%）が最も多く、ついで「増えた」（28.3%）、「減った」（3.3%）となっています（「事柄が該当しない 分からない」を除く）。

エ 興味や関心のあることに充てる時間について、「変化なし」（44.2%）が最も多く、ついで「増えた」（28.6%）、「減った」（15.9%）となっています。



問18 新型コロナウイルス感染症の流行が原因で、特に困った事がありましたか（影響があった時期は問いません）。【選択欄】から3つまで選んで、最も困った順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

新型コロナウイルス感染症の流行で特に困った事があったかについて、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「特に困った事はなかった」(36.9%)が最も多く、ついで「外出や運動する機会が減り、健康を害した」(19.9%)、「収入が減り、生活に困った」(10.5%)となっています。

2位は「友人・知人と接する機会が減り、関係が悪化した」(12.5%)が最も多く、ついで「外出や運動する機会が減り、健康を害した」(11.7%)、「地域での活動やつながりが減り、孤独や孤立感を感じた」(5.1%)となっています。

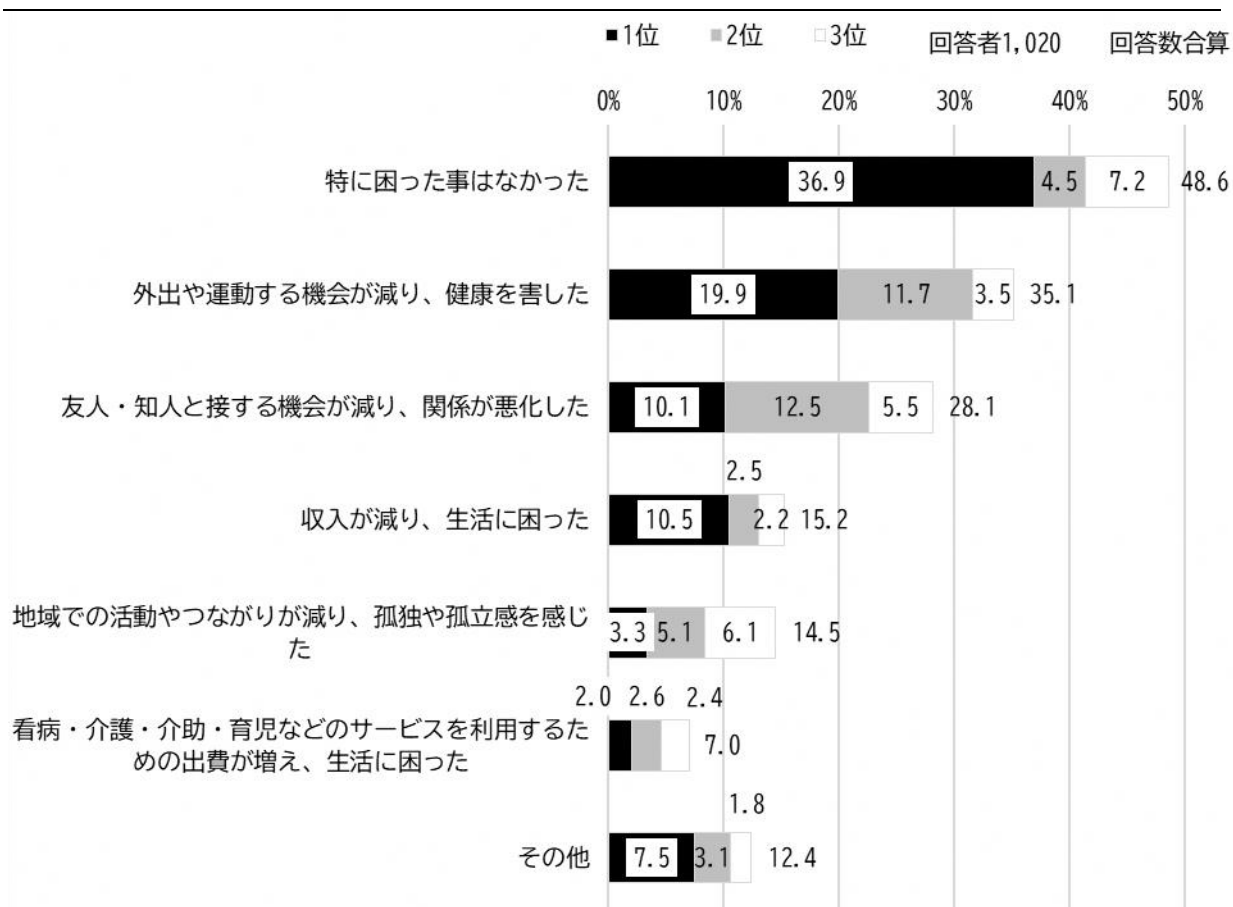
3位は「特に困った事はなかった」(7.2%)が最も多く、ついで「地域での活動やつながりが減り、孤独や孤立感を感じた」(6.1%)、「友人・知人と接する機会が減り、関係が悪化した」(5.5%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	特に困った事はなかった (36.9)	友人・知人と接する機会が減り、関係が悪化した (12.5)	特に困った事はなかった (7.2)
2番目に多い回答	外出や運動する機会が減り、健康を害した (19.9)	外出や運動する機会が減り、健康を害した (11.7)	地域での活動やつながりが減り、孤独や孤立感を感じた (6.1)
3番目に多い回答	収入が減り、生活に困った (10.5)	地域での活動やつながりが減り、孤独や孤立感を感じた (5.1)	友人・知人と接する機会が減り、関係が悪化した (5.5)

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

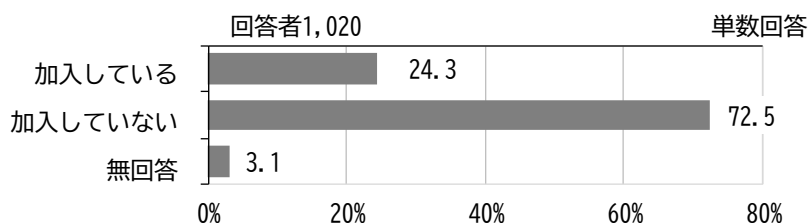
1位、2位、3位の回答数を合計すると、「特に困った事はなかった」(48.6%)が最も多く、
 ついで「外出や運動する機会が減り、健康を害した」(35.1%)、「友人・知人と接する機会が
 減り、関係が悪化した」(28.1%)となっています。



3. 地域での活動について

問19 現在、自治（町）会に加入していますか。（1つに○）

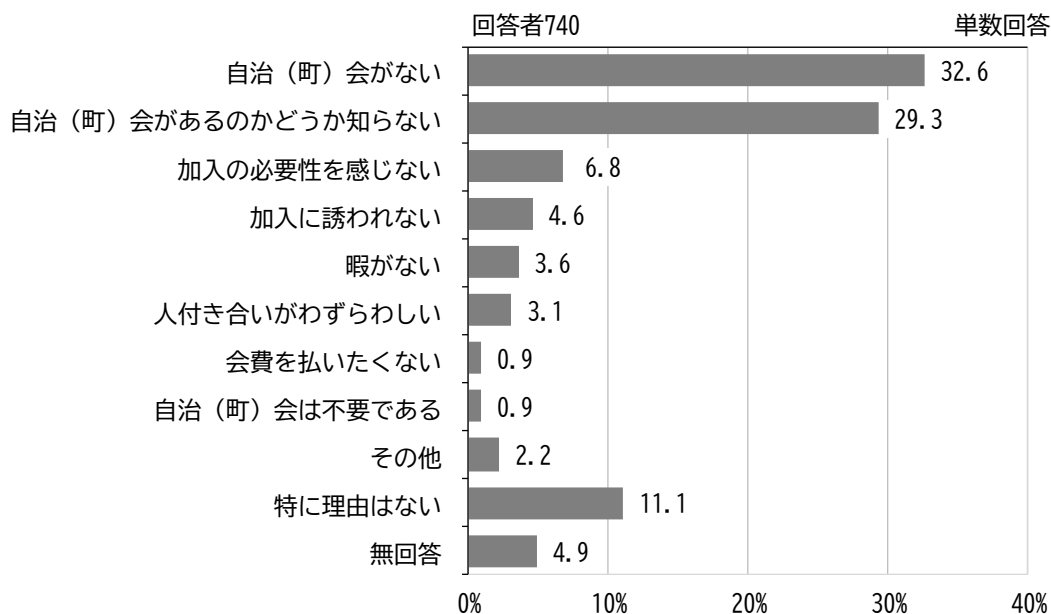
現在、自治（町）会に加入していますか。について、「加入していない」（72.5%）が最も多く、ついで「加入している」（24.3%）、「無回答」（3.1%）となっています。



付問 《問19で「加入していない」とお答えの方におたずねします》

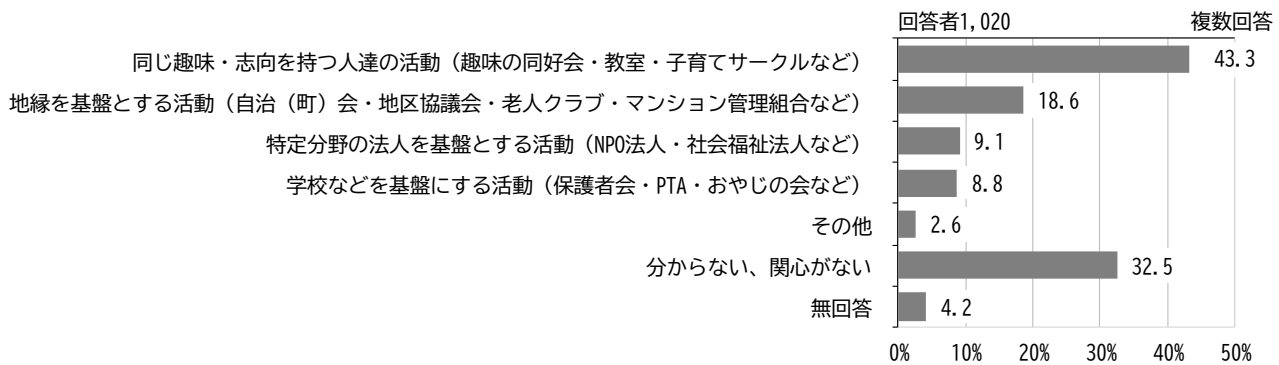
加入していない主な理由は何ですか。（1つに○）

現在、自治（町）会に「加入していない」と回答した方の加入していない主な理由は、「自治（町）会がない」（32.6%）が最も多く、ついで「自治（町）会があるのかどうか知らない」（29.3%）、「特に理由はない」（11.1%）となっています。



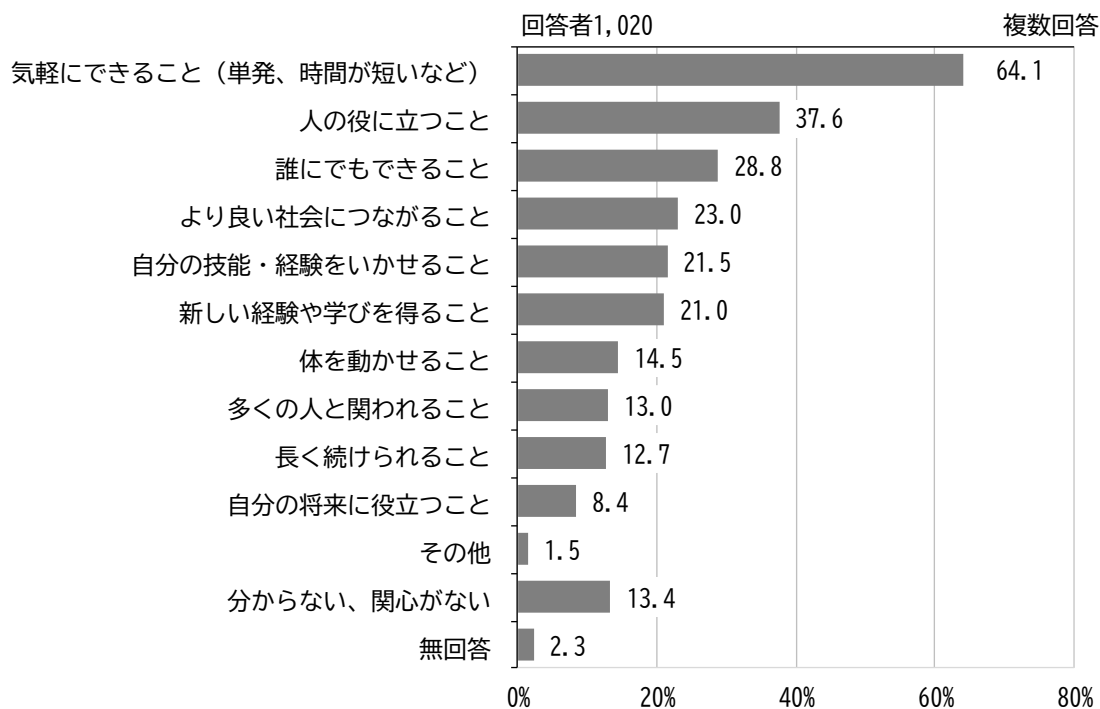
問20 次のうち、あなたが参加しやすい活動はどれですか。(いくつでも○)

参加しやすい地域活動について、「同じ趣味・志向を持つ人達の活動(趣味の同好会・教室・子育てサークルなど)」(43.3%)が最も多く、ついで「分からない、関心がない」(32.5%)、「地縁を基盤とする活動(自治(町)会・地区協議会・老人クラブ・マンション管理組合など)」(18.6%)となっています。



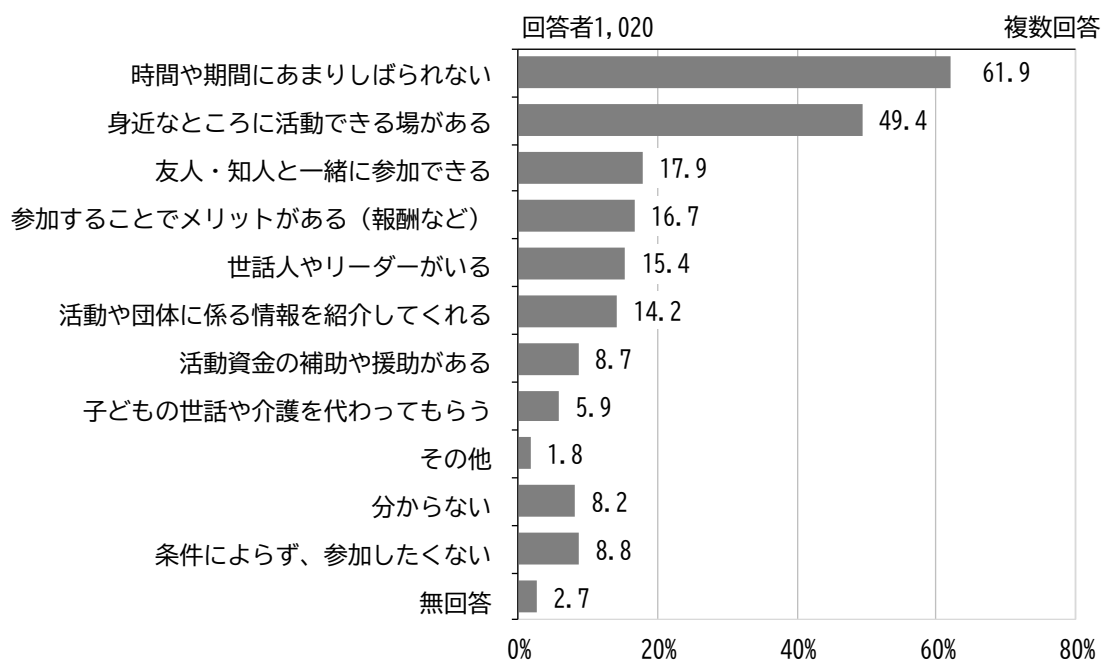
問21 地域活動・ボランティア活動に参加しようとする際、どういう点を重視しますか。(いくつでも○)

地域活動・ボランティア活動に参加しようとする際、どういう点を重視するかについて、「気軽にできること(単発、時間が短いなど)」(64.1%)が最も多く、ついで「人の役に立つこと」(37.6%)、「誰にでもできること」(28.8%)となっています。



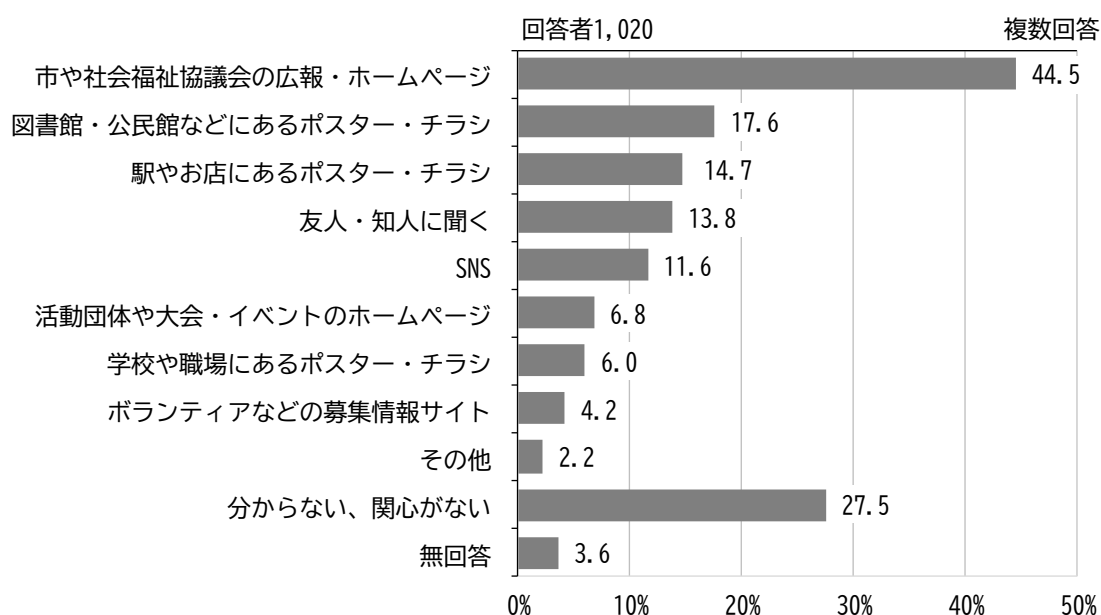
問22 地域活動・ボランティア活動で、どのような条件があると参加しやすいですか。
(いくつでも○)

地域活動・ボランティア活動で、どのような条件があると参加しやすいかについて、「時間や期間にあまりしぼられない」(61.9%)が最も多く、ついで「身近なところに活動できる場がある」(49.4%)、「友人・知人と一緒に参加できる」(17.9%)となっています。



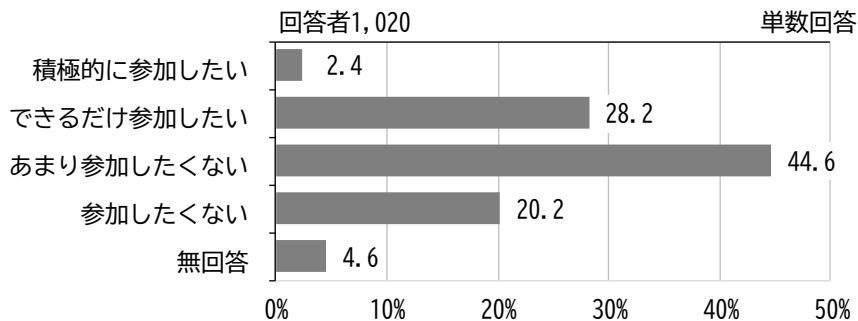
問23 地域活動・ボランティア活動の情報をどのような方法で探しますか。(いくつでも○)

地域活動・ボランティア活動の情報をどのような方法で探すかについて、「市や社会福祉協議会の広報・ホームページ」(44.5%)が最も多く、ついで「分からない、関心がない」(27.5%)、「図書館・公民館などにあるポスター・チラシ」(17.6%)となっています。



問24 今後、福祉に係るボランティア活動に参加したいとお考えですか。(1つに○)

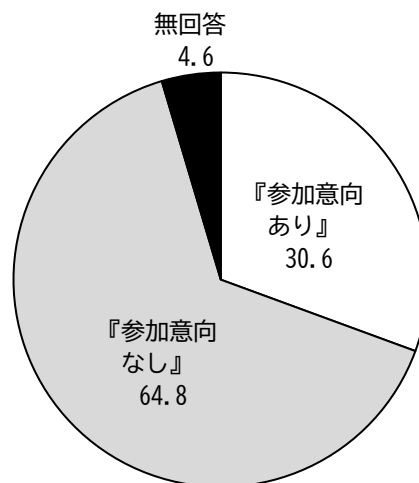
今後、福祉に係るボランティア活動に参加したいかについて、「あまり参加したくない」(44.6%)が最も多く、ついで「できるだけ参加したい」(28.2%)、「参加したくない」(20.2%)となっています。



『参加意向あり』(「積極的に参加したい」+「できるだけ参加したい」の合計)と『参加意向なし』(「あまり参加したくない」+「参加したくない」の合計)でみると、『参加意向あり』(30.6%)、『参加意向なし』(64.8%)となっています。

回答者1,020

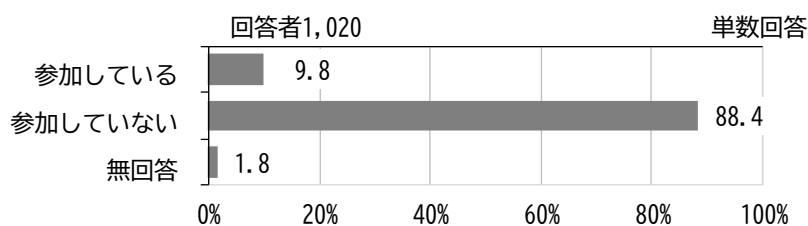
単数回答



単位 (%)

問25 日ごろから地域の防災訓練に参加していますか。(1つに○)

日ごろから地域の防災訓練に参加しているかについて、「参加していない」(88.4%)が最も多く、ついで「参加している」(9.8%)となっています。



4. 福祉について

問26 福祉に係る用語、市や関係機関の事業等についてお聞きします。

①ア～サについて知っていますか。(それぞれ1つに○)

福祉に係る用語、市や関係機関の事業等の認知度は、ア 成年後見制度について、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(30.4%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(24.8%)、「名前も内容も知っている」(21.4%)となっています。

イ 生活困窮者自立支援制度について、「名前は知っているが、内容は知らない」(41.8%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(24.3%)、「名前も内容も知らない」(21.7%)となっています。

ウ 地域包括支援センターについて、「名前は知っているが、内容は知らない」(30.5%)が最も多く、ついで「名前も内容も知らない」(23.3%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(22.4%)となっています。

エ 西東京市社会福祉協議会について、「名前は知っているが、内容は知らない」(39.4%)が最も多く、ついで「名前も内容も知らない」(26.2%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(18.3%)となっています。

オ 民生委員・児童委員について、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(33.1%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(31.5%)、「名前も内容も知っている」(18.1%)となっています。

カ ほっとするまちネットワークシステム(通称ほっとネット)について、「名前も内容も知らない」(72.5%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(17.9%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(4.1%)となっています。

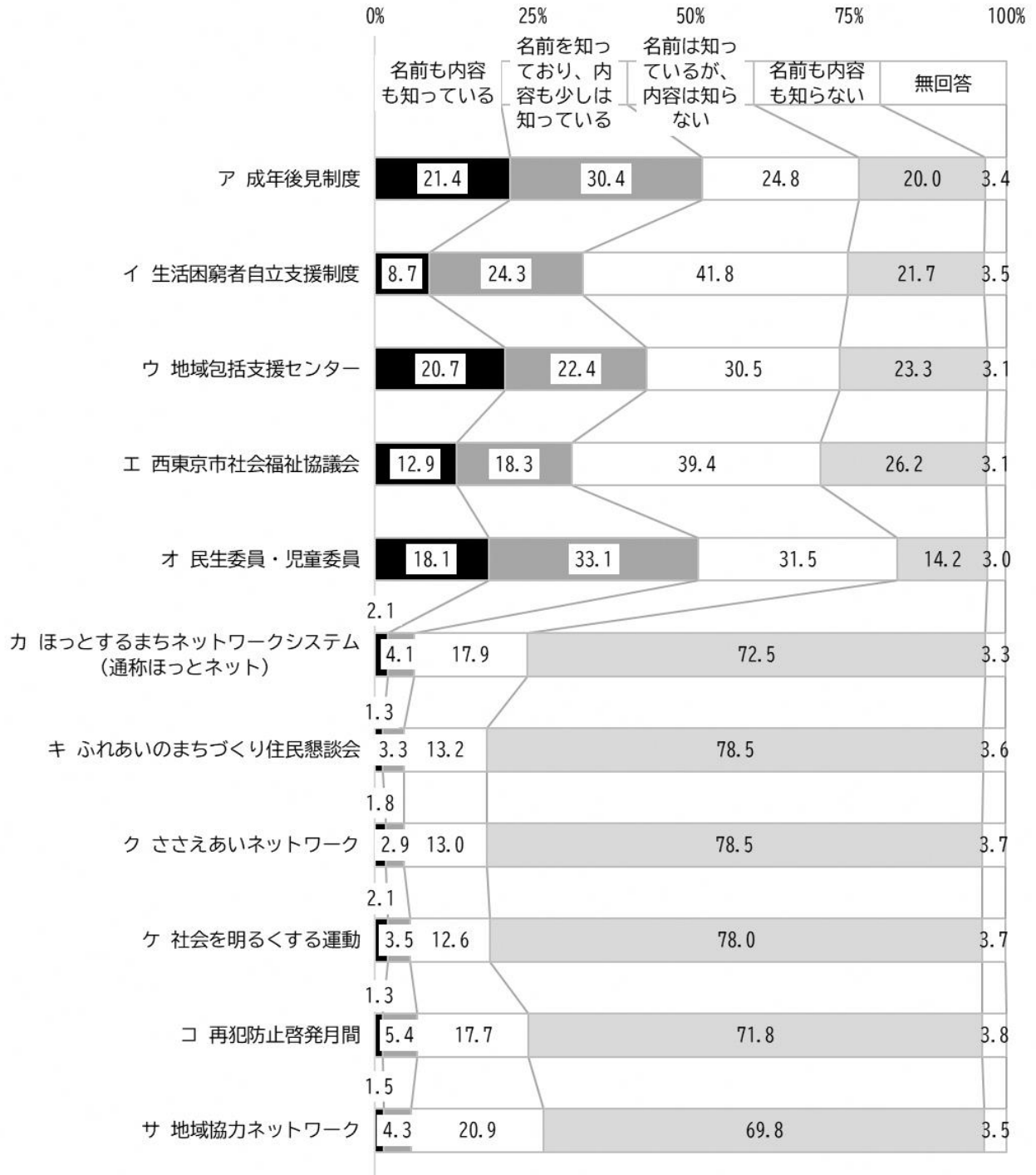
キ ふれあいのまちづくり住民懇談会について、「名前も内容も知らない」(78.5%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(13.2%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(3.3%)となっています。

ク ささえあいネットワークについて、「名前も内容も知らない」(78.5%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(13.0%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(2.9%)となっています。

ケ 社会を明るくする運動について、「名前も内容も知らない」(78.0%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(12.6%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(3.5%)となっています。

コ 再犯防止啓発月間について、「名前も内容も知らない」(71.8%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(17.7%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(5.4%)となっています。

サ 地域協力ネットワークについて、「名前も内容も知らない」(69.8%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(20.9%)、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(4.3%)となっています。



②ア～ケについて知っているか、関わったことはありますか。(それぞれ1つに○)

地域福祉に関する活動や機関との関わりの有無は、ア ほっとネット推進員について、「知らなかった」(85.7%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(9.4%)、「関わったことがある」(1.0%)となっています。

イ ささえあい訪問協力員について、「知らなかった」(84.4%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(9.9%)、「関わったことがある」(1.6%)となっています。

ウ 地域福祉コーディネーターについて、「知らなかった」(78.3%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(16.5%)、「関わったことがある」(1.2%)となっています。

エ 生活支援コーディネーターについて、「知らなかった」(73.9%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(20.5%)、「関わったことがある」(1.2%)となっています。

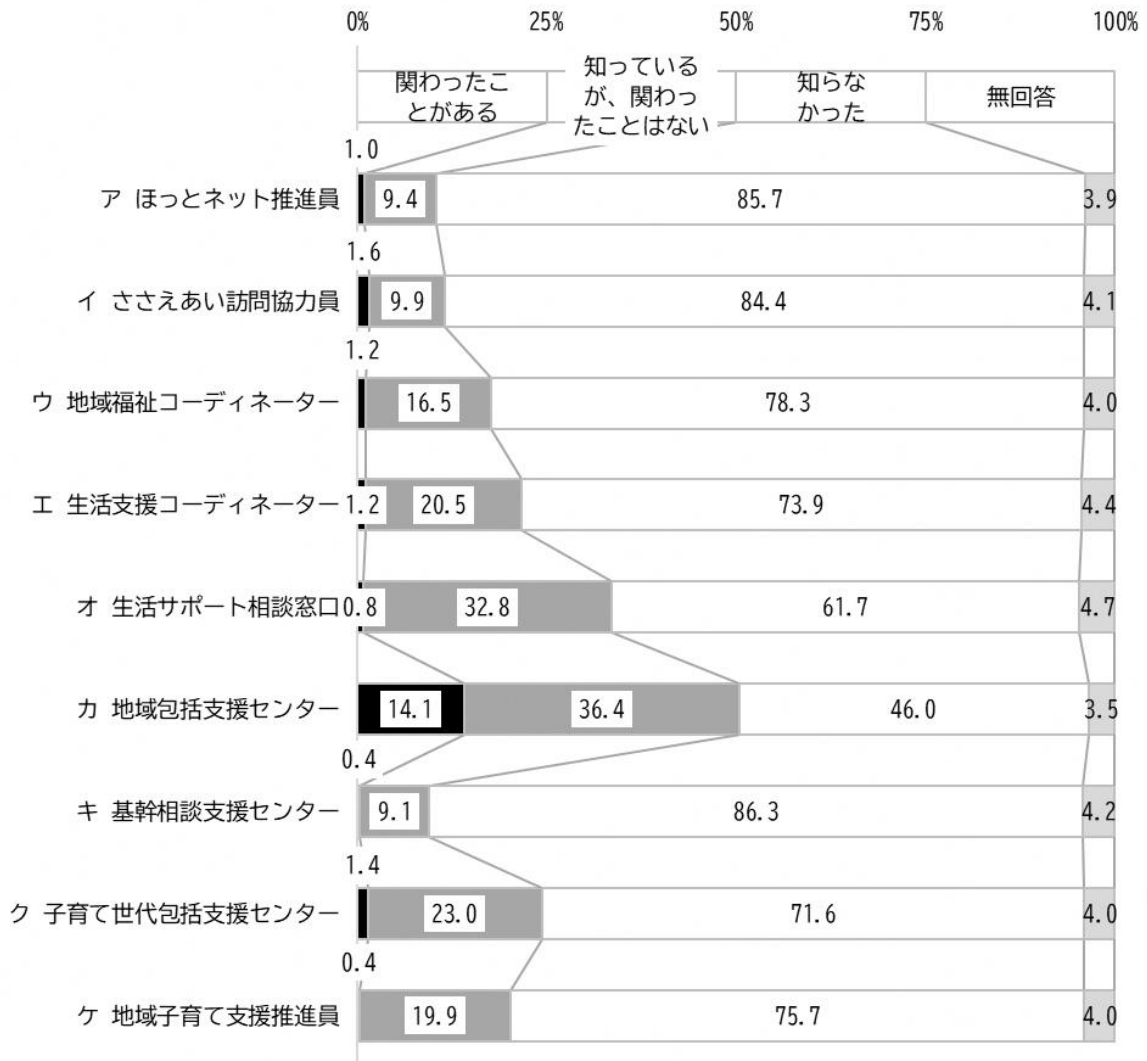
オ 生活サポート相談窓口について、「知らなかった」(61.7%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(32.8%)、「関わったことがある」(0.8%)となっています。

カ 地域包括支援センターについて、「知らなかった」(46.0%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(36.4%)、「関わったことがある」(14.1%)となっています。

キ 基幹相談支援センターについて、「知らなかった」(86.3%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(9.1%)、「関わったことがある」(0.4%)となっています。

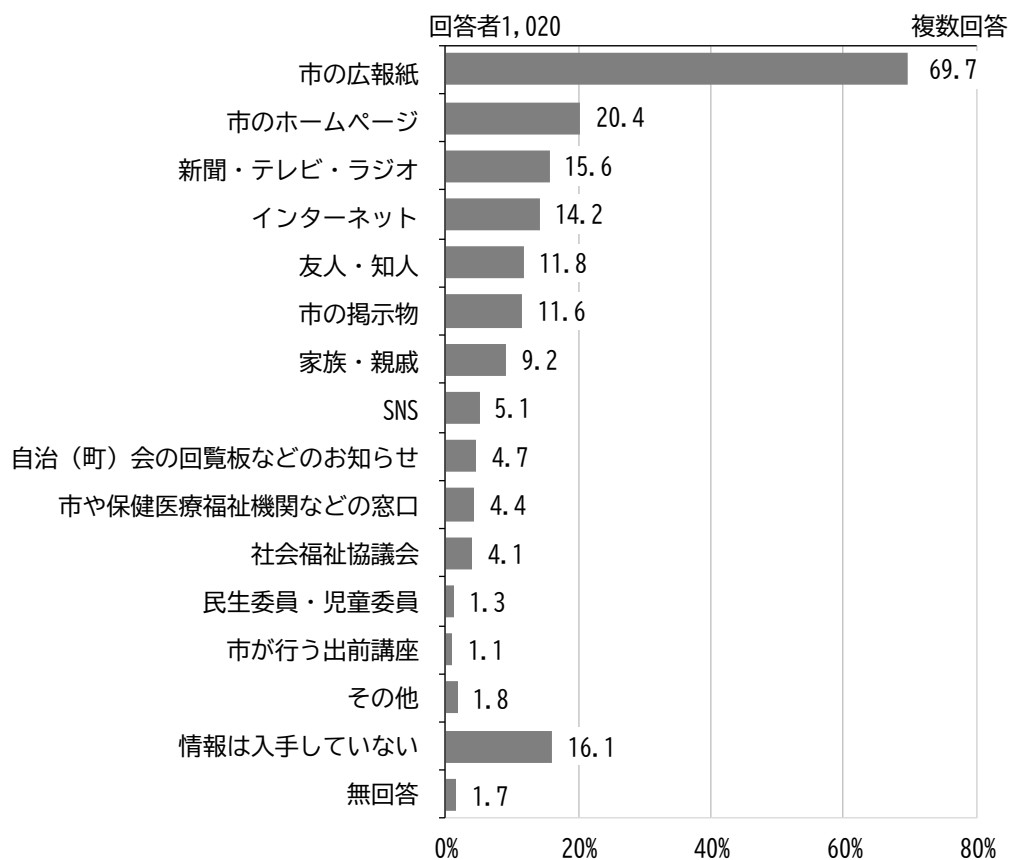
ク 子育て世代包括支援センターについて、「知らなかった」(71.6%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(23.0%)、「関わったことがある」(1.4%)となっています。

ケ 地域子育て支援推進員について、「知らなかった」(75.7%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(19.9%)、「関わったことがある」(0.4%)となっています。



問27 ふだん、福祉に係る情報をどのように得ていますか。(いくつでも○)

福祉に関する情報などの入手先について、「市の広報紙」(69.7%)が最も多く、ついで「市のホームページ」(20.4%)、「情報は入手していない」(16.1%)となっています。



問28 インターネットを使う情報端末、アプリ、サービスについて、①使用状況、②今後の使用意向を教えてください（①、②それぞれ1つに○）

①使用状況

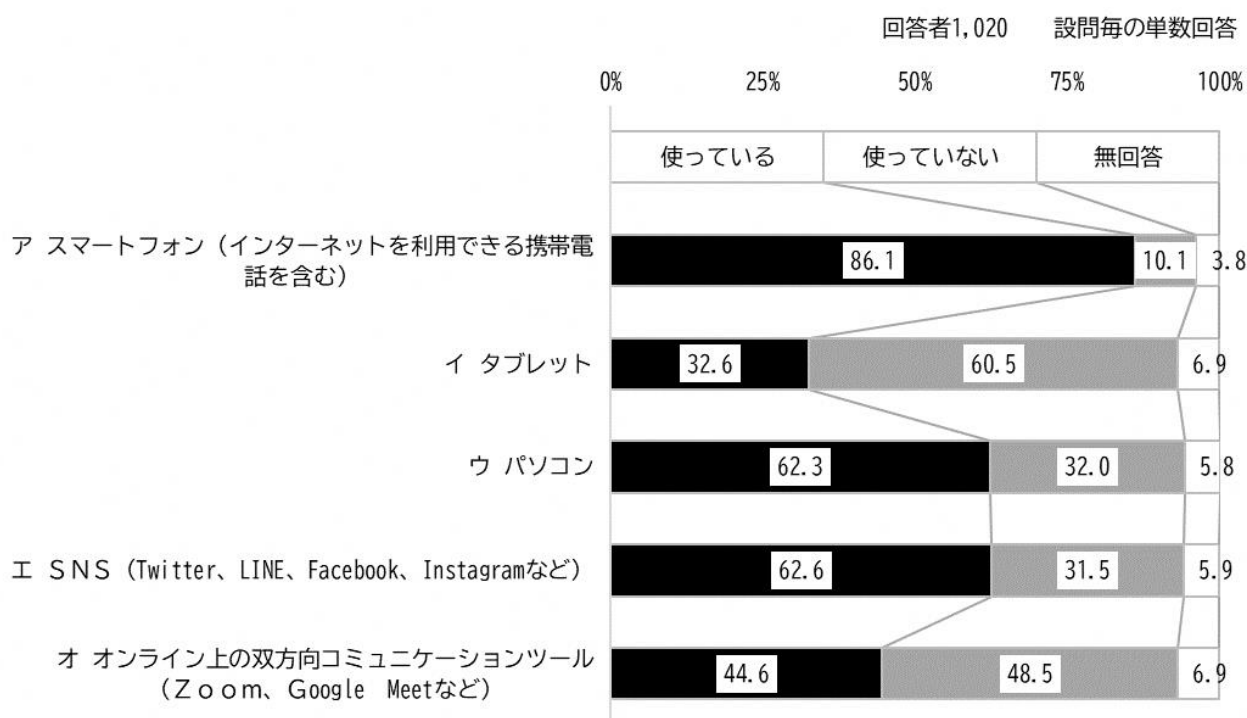
インターネットを使う情報端末、アプリ、サービスの使用状況を聞いたところ、スマートフォン（インターネットを利用できる携帯電話を含む）について、「使っている」（86.1%）が最も多く、ついで「使っていない」（10.1%）、「無回答」（3.8%）となっています。

タブレットについて、「使っていない」（60.5%）が最も多く、ついで「使っている」（32.6%）、「無回答」（6.9%）となっています。

パソコンについて、「使っている」（62.3%）が最も多く、ついで「使っていない」（32.0%）、「無回答」（5.8%）となっています。

使用状況 エ SNS（Twitter、LINE、Facebook、Instagramなど）について、「使っている」（62.6%）が最も多く、ついで「使っていない」（31.5%）、「無回答」（5.9%）となっています。

オ オンライン上の双方向コミュニケーションツール（Zoom、Google Meetなど）について、「使っていない」（48.5%）が最も多く、ついで「使っている」（44.6%）、「無回答」（6.9%）となっています。



②今後の使用意向

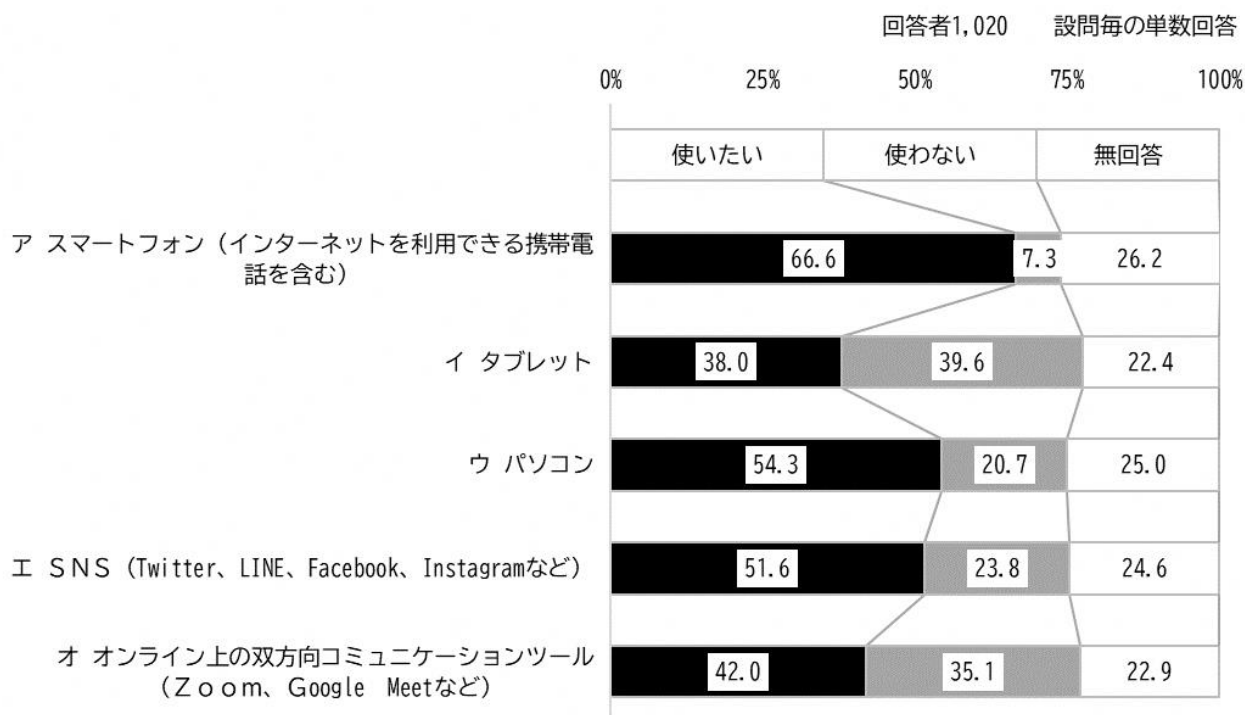
インターネットを使う情報端末、アプリ、サービスの今後の使用意向を聞いたところ、スマートフォン(インターネットを利用できる携帯電話を含む)について、「使いたい」(66.6%)が最も多く、ついで「使わない」(7.3%)、「無回答」(26.2%)となっています。

タブレットについて、「使わない」(39.6%)が最も多く、ついで「使いたい」(38.0%)となっています。

パソコンについて、「使いたい」(54.3%)が最も多く、ついで「使わない」(20.7%)、となっています。

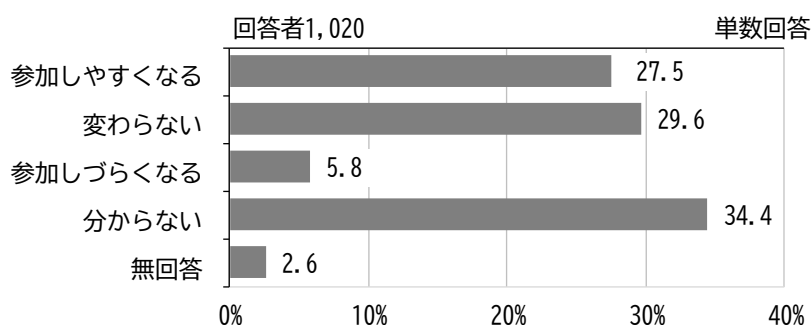
SNS (Twitter、LINE、Facebook、Instagramなど)について、「使いたい」(51.6%)が最も多く、ついで「使わない」(23.8%)となっています。

オンライン上の双方向コミュニケーションツール (Zoom、Google Meetなど) について、「使いたい」(42.0%)が最も多く、ついで「使わない」(35.1%)となっています。



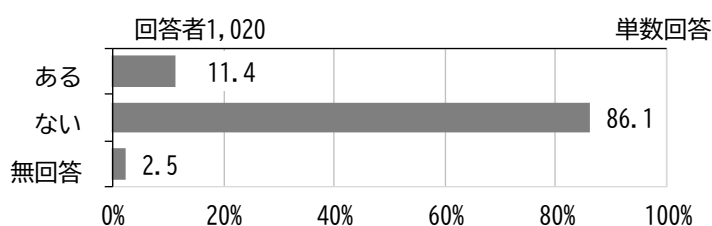
問29 今後、市や社会福祉協議会の講座・イベントがオンラインで開催（インターネットを介して参加する方法）される場合、参加しやすくなりますか。（1つに○）

今後、市や社会福祉協議会の講座・イベントがオンラインで開催（インターネットを介して参加する方法）される場合、参加しやすくなるかについて、「分からない」（34.4%）が最も多く、ついで「変わらない」（29.6%）、「参加しやすくなる」（27.5%）となっています。



問30 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいか分からない困り事を抱えていますか。（1つに○）

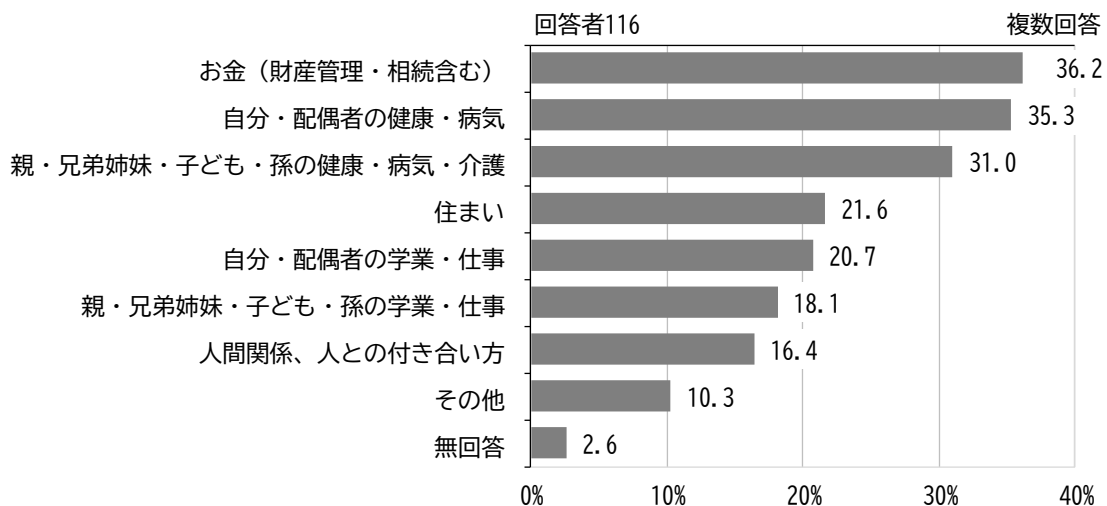
現在、あなた自身やご家族はどこに相談すればいいか分からない困り事を抱えているかについて、「ない」（86.1%）が最も多く、ついで「ある」（11.4%）となっています。



付問 《問30で「ある」とお答えの方におたずねします》

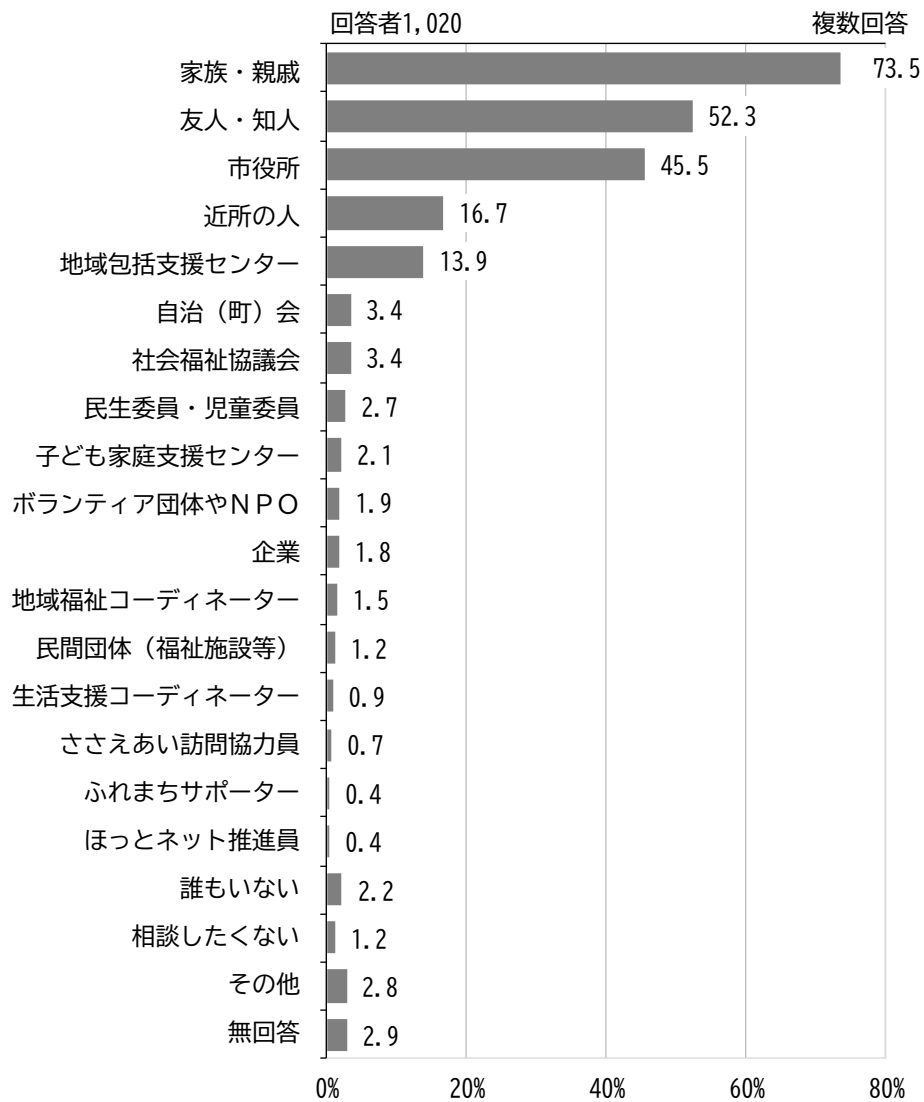
差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

あなた自身やご家族がどこに相談すればいいかわからない困り事を抱えているかに「ある」と回答した方に、困り事の内容を聞いたところ、「お金（財産管理・相続含む）」(36.2%)が最も多く、ついで「自分・配偶者の健康・病気」(35.3%)、「親・兄弟姉妹・子ども・孫の健康・病気・介護」(31.0%)となっています。



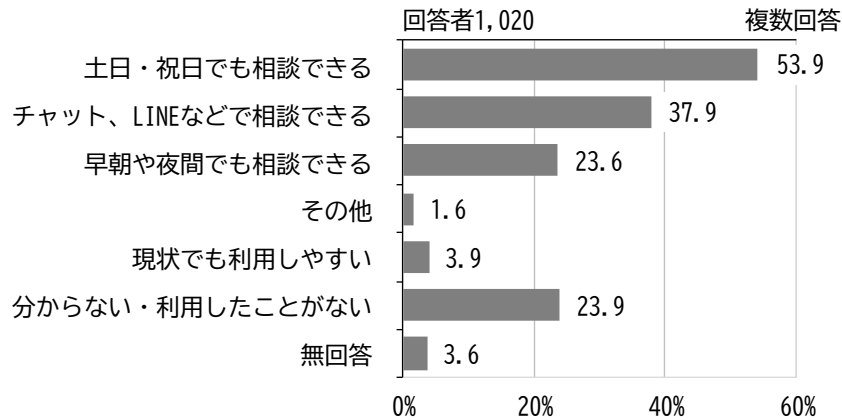
問31 地域で暮らす中で困ったときは、誰（機関）に相談したいですか。もしくは相談したことがありますか。（いくつでも○）

地域で暮らす中で困ったときに誰（機関）に相談したいか、もしくは相談したことがあるかについて、「家族・親戚」（73.5%）が最も多く、ついで「友人・知人」（52.3%）、「市役所」（45.5%）となっています。



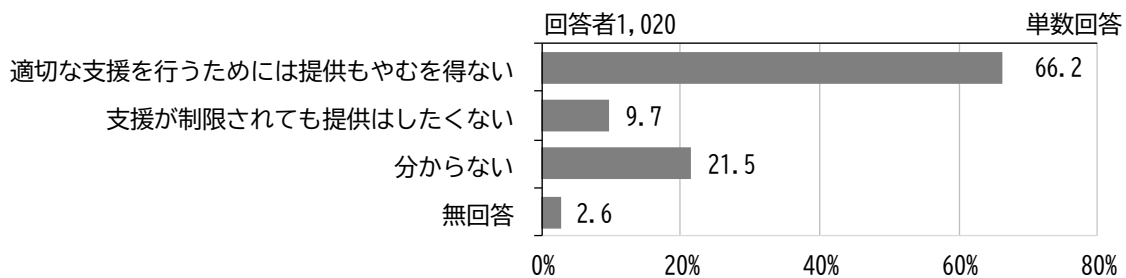
問32 相談窓口をより利用しやすくする方法は何ですか。(いくつでも○)

相談窓口をより利用しやすくする方法について、「土日・祝日でも相談できる」(53.9%)が最も多く、ついで「チャット、LINEなどで相談できる」(37.9%)、「分からない・利用したことがない」(23.9%)となっています。



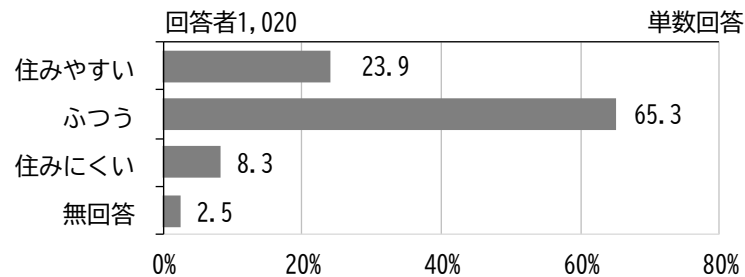
問33 生活支援や福祉サービスをより適切に実施するために、個人情報保護法を遵守する関係機関がご本人の承諾を得た個人情報を必要とする場合があります。あなたは、関係機関に個人情報を提供することについてどう考えますか。(1つに○)

関係機関に個人情報を提供することをどう考えるかについて、「適切な支援を行うためには提供もやむを得ない」(66.2%)が最も多く、ついで「分からない」(21.5%)、「支援が制限されても提供はしたくない」(9.7%)となっています。



問34 お住まいの地域は、高齢者、障害者、子どもなど、誰にとっても住みやすいと思いますか。(1つに○)

お住まいの地域は、高齢者、障害者、子どもなど、誰にとっても住みやすいと思うかについて、「ふつう」(65.3%)が最も多く、ついで「住みやすい」(23.9%)、「住みにくい」(8.3%)となっています。



付問 《問34で「住みにくい」とお答えの方におたずねします》

住みにくいと思う理由は何ですか。【選択欄】から3つまで選んで、最も感じる順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

居住地区が誰にとっても住みやすいと思うかに「住みにくい」と回答した方に住みにくいと思う理由を、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「道路の段差が多い・歩道が整備されていない」(32.9%)が最も多く、ついで「地域住民の理解や協力が少ない」(10.6%)と「買い物などが不便」(10.6%)となっています(「その他」を除く)。

2位は「交通機関が不便・利用しにくい」(14.1%)が最も多く、ついで「利用しやすい医療機関が少ない」(11.8%)と「親子で遊べる場所が少ない」(11.8%)となっています。

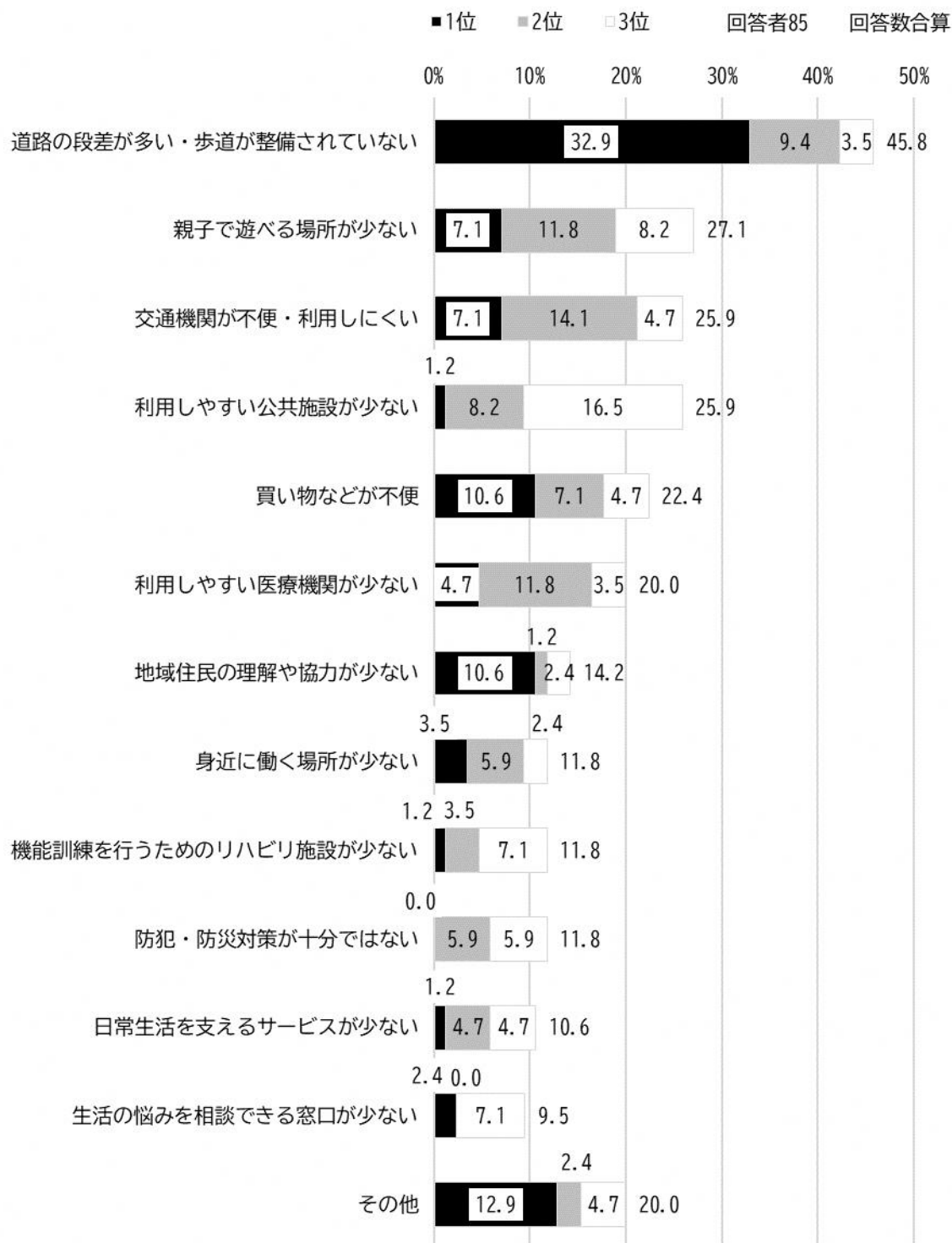
3位は「利用しやすい公共施設が少ない」(16.5%)が最も多く、ついで「親子で遊べる場所が少ない」(8.2%)、「生活の悩みを相談できる窓口が少ない」(7.1%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	道路の段差が多い・歩道が整備されていない (32.9)	交通機関が不便・利用しにくい (14.1)	利用しやすい公共施設が少ない (16.5)
2番目に多い回答	地域住民の理解や協力が少ない (10.6) 買い物などが不便 (10.6)	利用しやすい医療機関が少ない (11.8) 親子で遊べる場所が少ない (11.8)	親子で遊べる場所が少ない (8.2)
3番目に多い回答			生活の悩みを相談できる窓口が少ない (7.1)

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

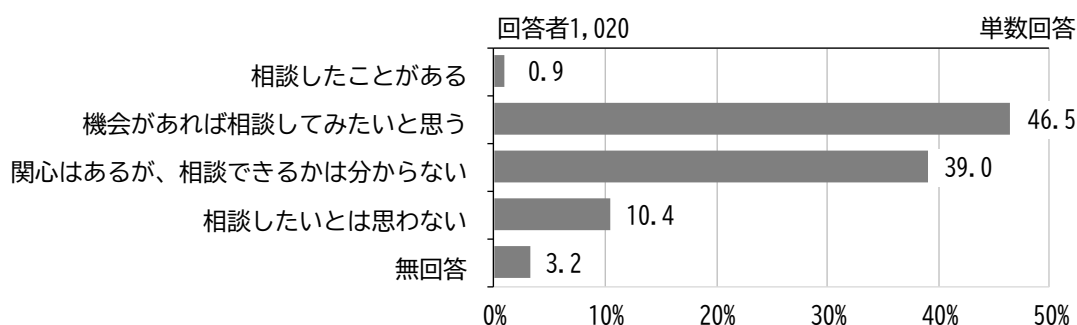
1位、2位、3位の回答数を合計すると、「道路の段差が多い・歩道が整備されていない」(45.8%)が最も多く、ついで「親子で遊べる場所が少ない」(27.1%)、「交通機関が不便・利用しにくい」(25.9%)となっています。



5. 「ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）」について

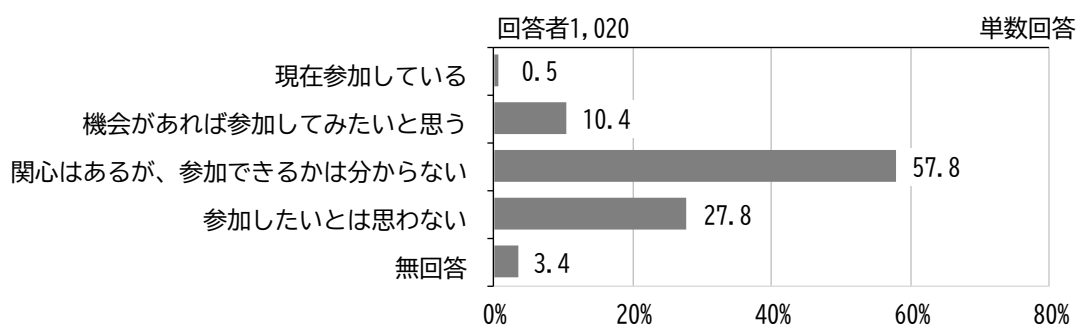
問35 地域の皆様からの、生活上の困り事の相談を受け付ける窓口として、「ほっとネットステーション」を設置しており、「地域福祉コーディネーター」が常駐しております。今後、日常生活の中で何か困り事があったときに、相談してみたいと思いますか。（1つに○）

日常生活の中で何か困り事があったとき、困り事の相談を受け付ける窓口である「地域福祉コーディネーター」に相談してみたいと思うかについて、「機会があれば相談してみたいと思う」（46.5%）が最も多く、ついで「関心はあるが、相談できるかは分からない」（39.0%）、「相談したいとは思わない」（10.4%）となっています。



問36 ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）の中で、地域の問題や課題を発見し、解決のために協力してくださる市民の方（ほっとネット推進員）を募集しています。今後、参加してみたいと思いますか。（1つに○）

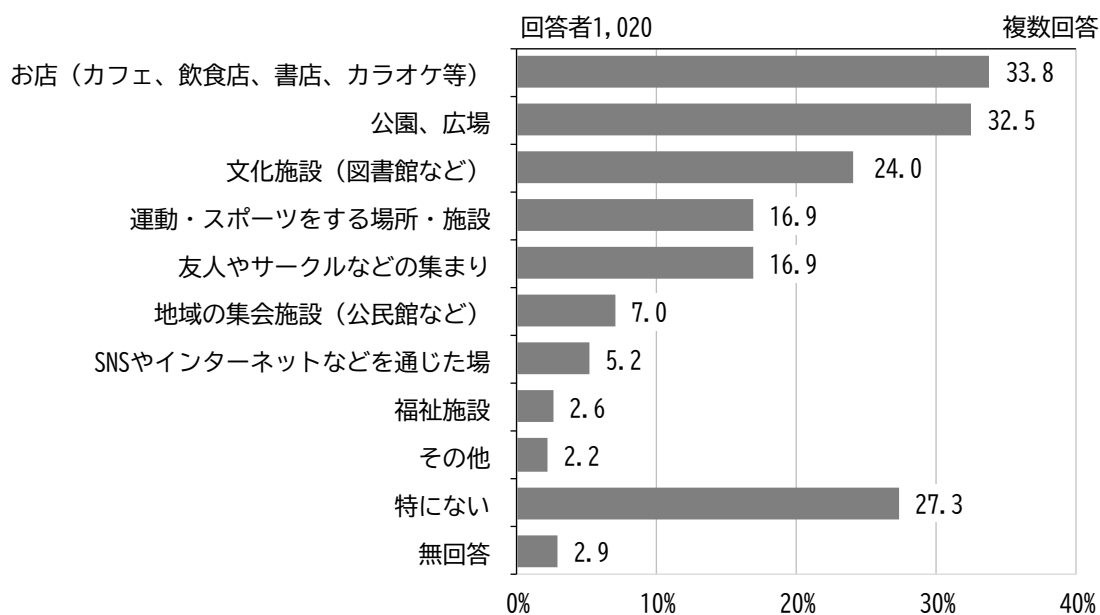
地域の問題や課題を発見し解決のために協力してくださる市民活動（ほっとネット推進員）に今後、参加してみたいと思うかについて、「関心はあるが、参加できるかは分からない」（57.8%）が最も多く、ついで「参加したいとは思わない」（27.8%）、「機会があれば参加してみたいと思う」（10.4%）となっています。



6. これからの取組について

問37 ご自宅以外で、気兼ねなく過ごせる、あなたにとって「居心地の良い場所」は市内にありますか。(いくつでも○)

ご自身が自宅以外で気兼ねなく過ごせる「居心地の良い場所」は市内にあるかについて、「お店（カフェ、飲食店、書店、カラオケ等）」(33.8%)が最も多く、ついで「公園、広場」(32.5%)、「特にない」(27.3%)となっています。



問38 安心して暮らせるまちのために、住民参加の取組として、どのような活動が重要だと思いますか。【選択欄】から3つまで選んで、最も重要な順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

安心して暮らせるまちのために、住民参加の取組としてどのような活動が重要だと思うかを、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「地域での声かけ、見守り活動」(23.7%)が最も多く、ついで「災害時に助け合うための関係づくり」(17.5%)、「防犯活動」(10.4%)となっています。

2位は「災害時に助け合うための関係づくり」(15.7%)が最も多く、ついで「防犯活動」(13.2%)、「子どもたちの居場所(学習支援・子ども食堂など)」(8.3%)となっています。

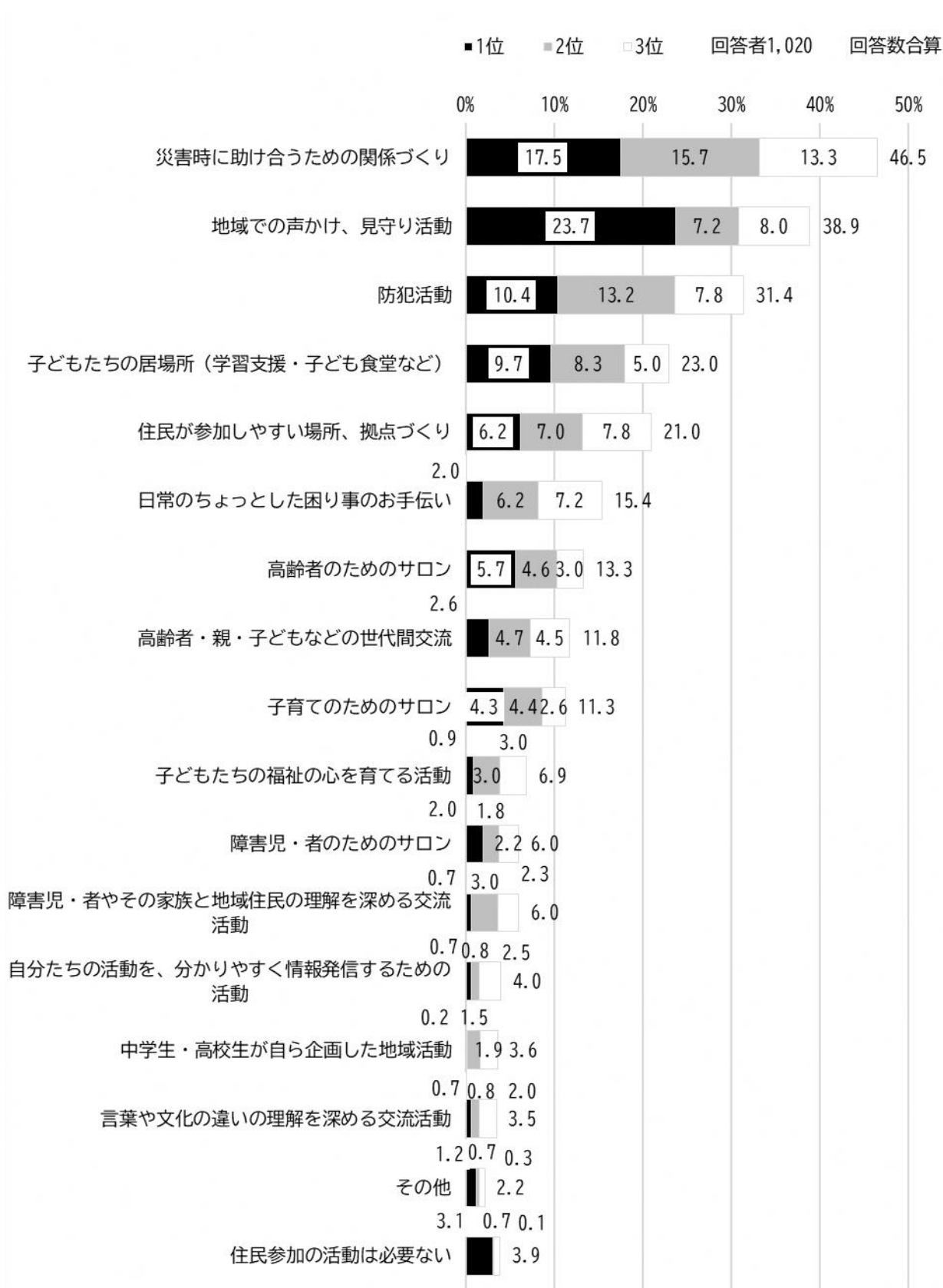
3位は「災害時に助け合うための関係づくり」(13.3%)が最も多く、ついで「地域での声かけ、見守り活動」(8.0%)、「防犯活動」(7.8%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	地域での声かけ、見守り活動 (23.7)	災害時に助け合うための関係づくり (15.7)	災害時に助け合うための関係づくり (13.3)
2番目に多い回答	災害時に助け合うための関係づくり (17.5)	防犯活動 (13.2)	地域での声かけ、見守り活動 (8.0)
3番目に多い回答	防犯活動 (10.4)	子どもたちの居場所(学習支援・子ども食堂など) (8.3)	防犯活動 (7.8)

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「災害時に助け合うための関係づくり」(46.5%)が最も多く、ついで「地域での声かけ、見守り活動」(38.9%)、「防犯活動」(31.4%)となっています。



問39 住民参加の取組を進めるに当たって、何が必要だと思いますか。【選択欄】から3つまで選んで、最も必要な順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

住民参加の取組を進めるに当たって必要だと思うことを、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「活動を支える協力者」(30.7%)が最も多く、ついで「リーダーの養成」(9.8%)、「活動する場」(9.5%)となっています。

2位は「活動する場」(12.3%)が最も多く、ついで「活動者・協力者間の交流・相談の場」(11.7%)、「活動の資金」(11.0%)となっています。

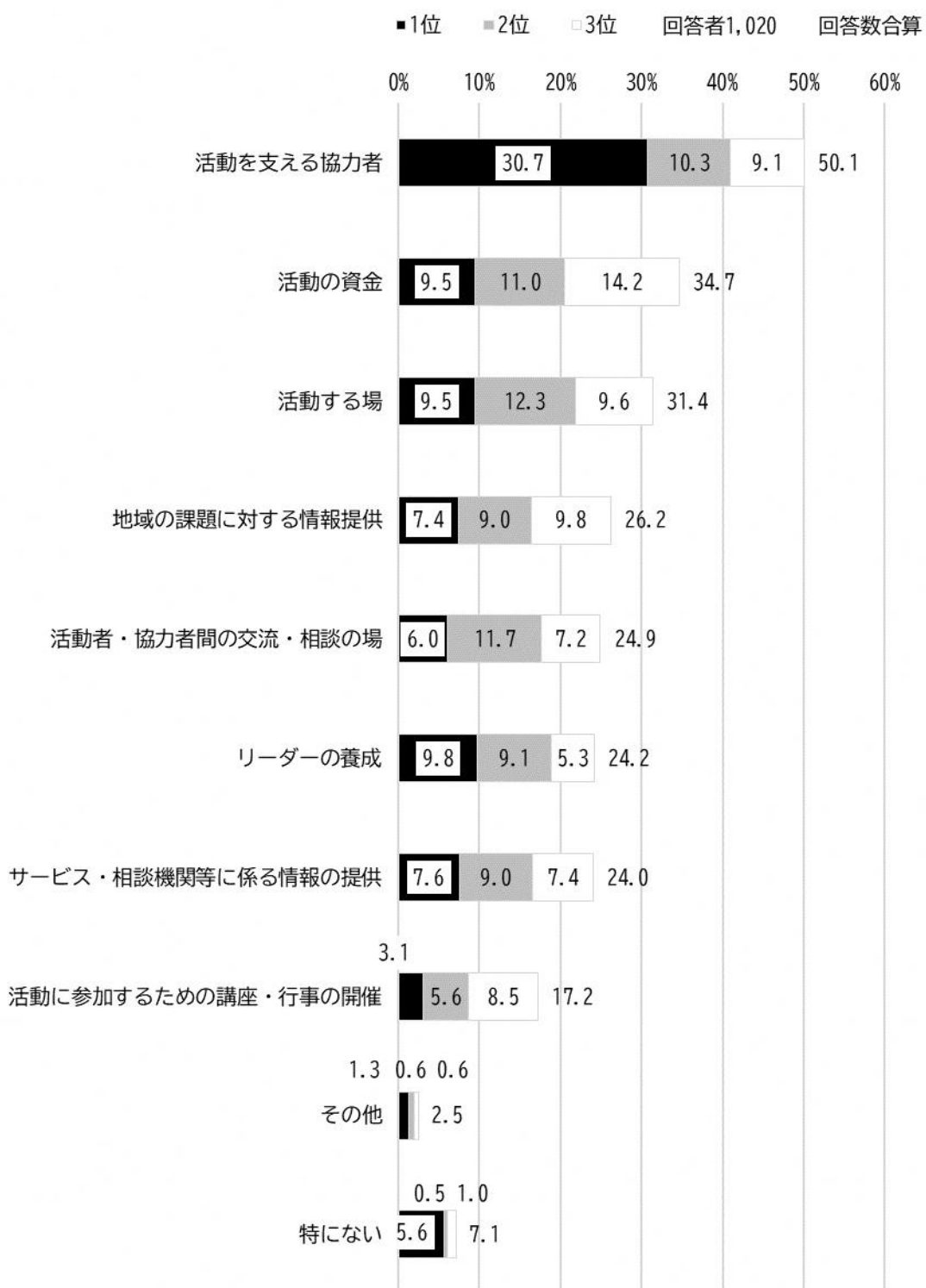
3位は「活動の資金」(14.2%)が最も多く、ついで「地域の課題に対する情報提供」(9.8%)、「活動する場」(9.6%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	活動を支える協力者 (30.7)	活動する場 (12.3)	活動の資金 (14.2)
2番目に多い回答	リーダーの養成 (9.8)	活動者・協力者間の交流・相談の場 (11.7)	地域の課題に対する情報提供 (9.8)
3番目に多い回答	活動する場 (9.5)	活動の資金 (11.0)	活動する場 (9.6)

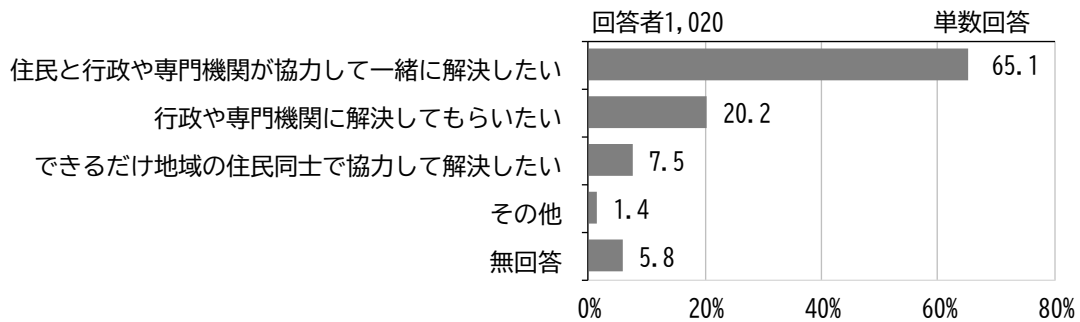
<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「活動を支える協力者」(50.1%)が最も多く、ついで「活動の資金」(34.7%)、「活動する場」(31.4%)となっています。



問40 今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。(1つに○)

今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思うかについて、「住民と行政や専門機関が協力して一緒に解決したい」(65.1%)が最も多く、ついで「行政や専門機関に解決してもらいたい」(20.2%)、「できるだけ地域の住民同士で協力して解決したい」(7.5%)となっています。



問41 市の地域福祉推進のために重要な取組は何ですか。【選択欄】から3つまで選んで、最も重要な順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

住民参加の取組を進めるに当たって必要だと思うことを、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「分かりやすい情報の提供」(16.1%)が最も多く、ついで「学校における福祉教育の充実」(9.8%)、「福祉活動を行う人材の発掘」(8.2%)となっています。

2位は「分かりやすい情報の提供」(11.0%)が最も多く、ついで「防災対策の充実」(8.8%)、「相談支援体制の充実」(7.7%)となっています。

3位は「分かりやすい情報の提供」(7.9%)が最も多く、ついで「防犯対策の充実」(7.4%)、「多様な課題に対応する仕組みづくり」(6.5%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	分かりやすい情報の提供 (16.1)	分かりやすい情報の提供 (11.0)	分かりやすい情報の提供 (7.9)
2番目に多い回答	学校における福祉教育の充実 (9.8)	防災対策の充実 (8.8)	防犯対策の充実 (7.4)
3番目に多い回答	福祉活動を行う人材の発掘 (8.2)	相談支援体制の充実 (7.7)	多様な課題に対応する仕組みづくり (6.5)

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「分かりやすい情報の提供」(35.0%)が最も多く、
 ついで「防災対策の充実」(19.9%)、「相談支援体制の充実」(18.5%)となっています。



問42 以下のテーマについて、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

(自由記述)

(最終報告に掲載)

(1) みんなで助け合い・支え合う地域をつくるためのご意見やアイデア

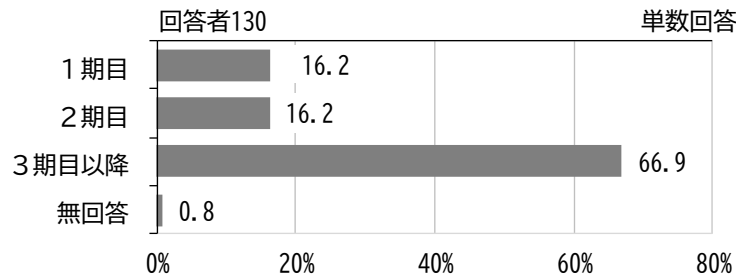
(2) 地域福祉を進める取組について、ご意見、ご提案があれば教えてください。

Ⅲ 民生委員・児童委員調査結果

1. 活動について

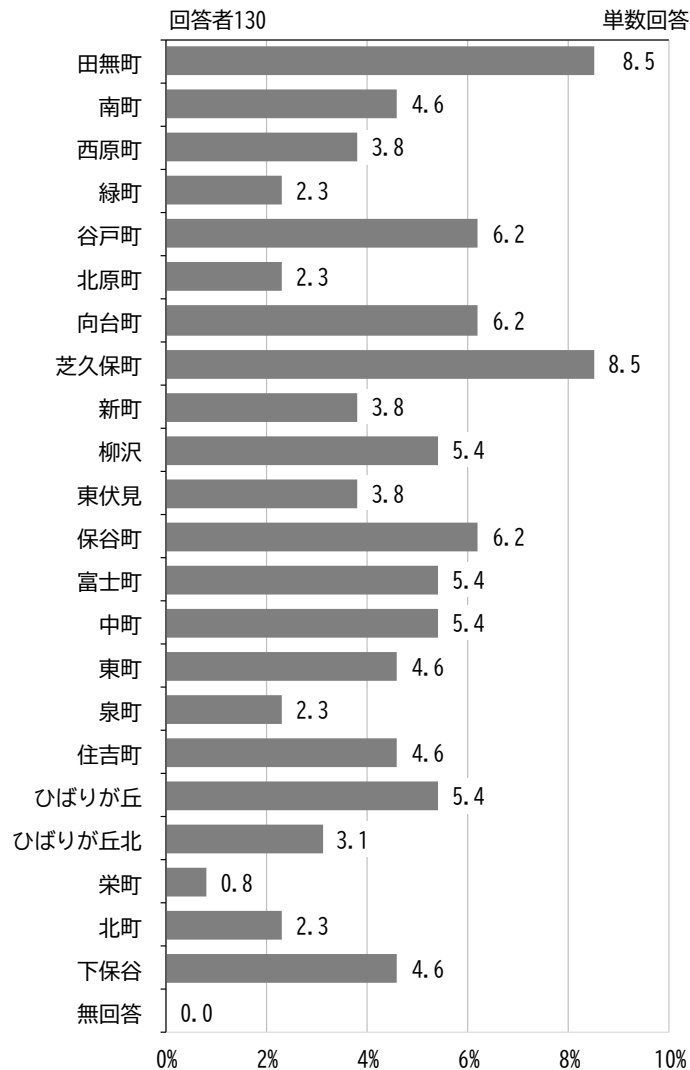
問1 あなたは現在何期目ですか。(1つに○)

民生委員・児童委員が何期目かについて、「3期目以降」(66.9%)が最も多く、ついで「1期目」(16.2%)、「2期目」(16.2%)となっています。



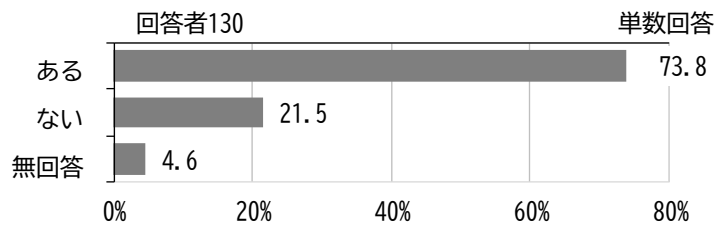
問2 現在の担当地区を教えてください。(1つに○)

担当地区について、「田無町」(8.5%)と「芝久保町」(8.5%)が最も多く、ついで「谷戸町」、「向台町」、「保谷町」(ともに6.2%)となっています。



問3 地域の課題を解決するために、行政（市、県、国などの行政機関）に相談したり、手助けを求めたりしたことがありますか。（1つに○）

地域の課題を解決するために、行政（市、県、国などの行政機関）に相談したり、手助けを求めたりしたことがあるかについて、「ある」（73.8%）が最も多く、ついで「ない」（21.5%）となっています。



問4 現在の民生委員・児童委員活動をどのようにお考えですか。(それぞれ1つに○)

現在の民生委員・児童委員活動に対するお考えを聞いたところ、ア 社会調査活動について、「現状で十分」(76.9%)が最も多く、ついで「充実させる」(15.4%)、「多すぎる」(6.2%)となっています。

イ 相談活動について、「現状で十分」(65.4%)が最も多く、ついで「充実させる」(33.1%)、「多すぎる」(0.8%)となっています。

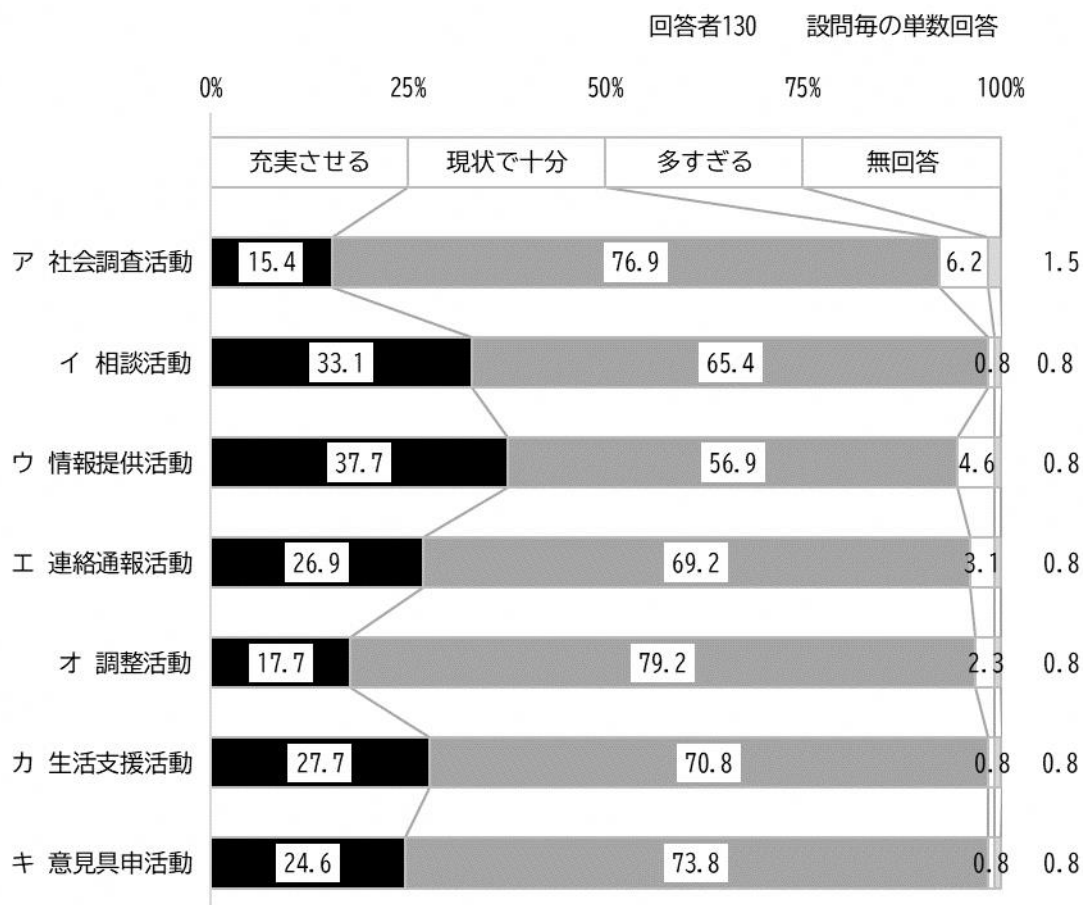
ウ 情報提供活動について、「現状で十分」(56.9%)が最も多く、ついで「充実させる」(37.7%)、「多すぎる」(4.6%)となっています。

エ 連絡通報活動について、「現状で十分」(69.2%)が最も多く、ついで「充実させる」(26.9%)、「多すぎる」(3.1%)となっています。

オ 調整活動について、「現状で十分」(79.2%)が最も多く、ついで「充実させる」(17.7%)、「多すぎる」(2.3%)となっています。

カ 生活支援活動について、「現状で十分」(70.8%)が最も多く、ついで「充実させる」(27.7%)、「多すぎる」(0.8%)となっています。

キ 意見具申活動について、「現状で十分」(73.8%)が最も多く、ついで「充実させる」(24.6%)、「多すぎる」(0.8%)となっています。



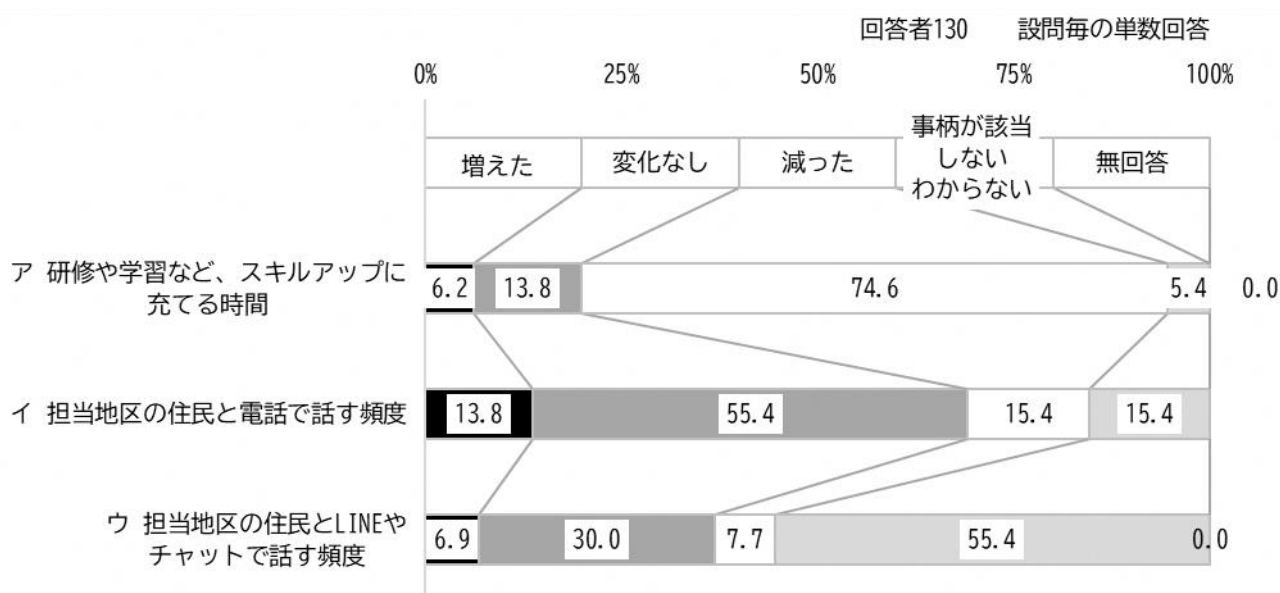
2. 担当地区について

問5 新型コロナウイルス感染症の流行により、民生委員・児童委員活動にどのような影響がありましたか（影響があった時期は問いません）。（それぞれ1つに○）

新型コロナウイルス感染症の流行による民生委員・児童委員活動への影響は、ア 研修や学習など、スキルアップに充てる時間について、「減った」（74.6%）が最も多く、ついで「変化なし」（13.8%）、「増えた」（6.2%）となっています。

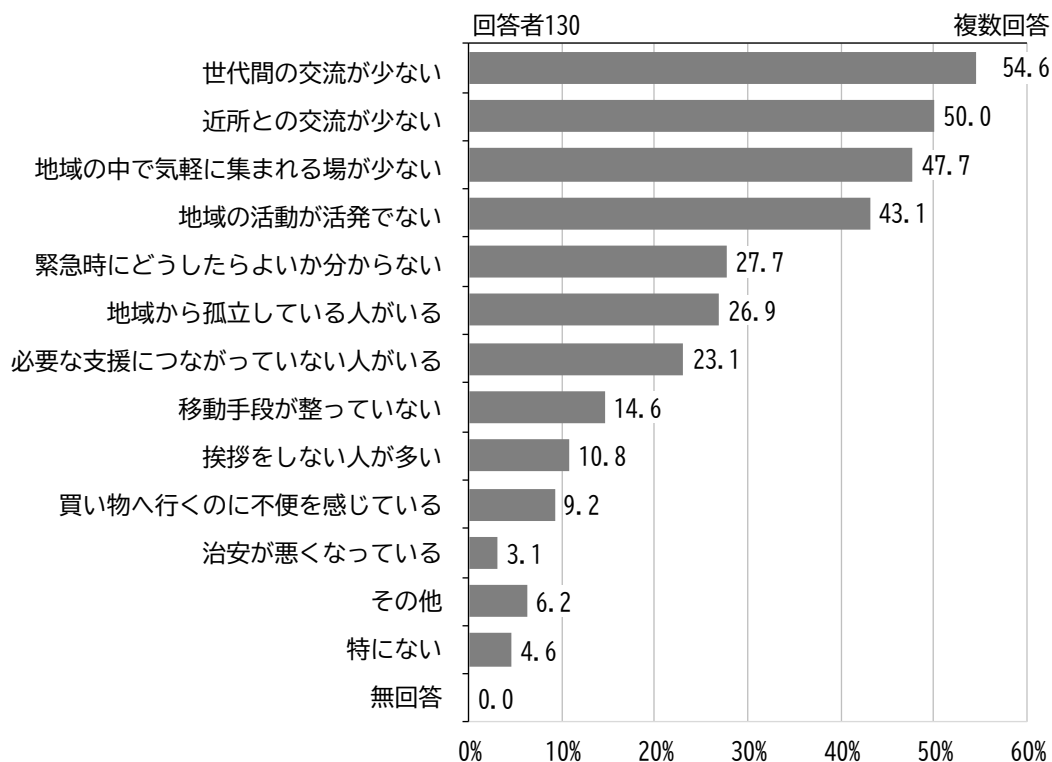
イ 担当地区の住民と電話で話す頻度について、「変化なし」（55.4%）が最も多く、ついで「減った」（15.4%）、「増えた」（13.8%）となっています（「事柄が該当しない 分からない」を除く）。

ウ 担当地区の住民とLINEやチャットで話す頻度について、「変化なし」（30.0%）が最も多く、ついで、「減った」（7.7%）、「増えた」（6.9%）となっています（「事柄が該当しない 分からない」を除く）。



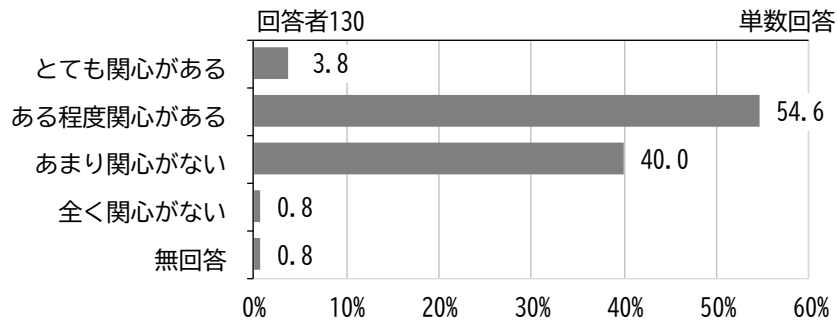
問6 担当地区において、課題に感じることは何ですか。(いくつでも○)

担当地区において課題に感じることにについて、「世代間の交流が少ない」(54.6%)が最も多く、ついで「近所との交流が少ない」(50.0%)、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」(47.7%)となっています。



問7 担当地区の住民は、地域での支え合いや助け合いの活動に関心があると思いますか。
(主なもの1つに○)

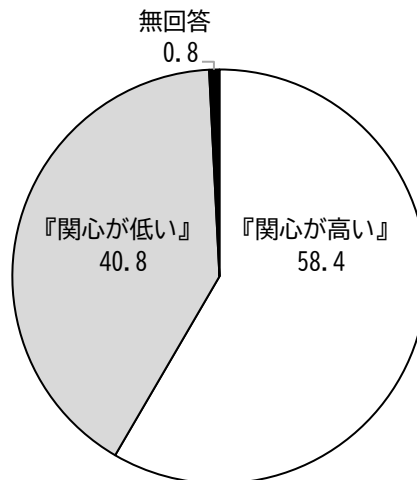
担当地区の住民は、地域での支え合いや助け合いの活動に関心があると思うかについて、「ある程度関心がある」(54.6%)が最も多く、ついで「あまり関心がない」(40.0%)、「とても関心がある」(3.8%)となっています。



『関心が高い』(「とても関心がある」+「ある程度関心がある」の合計)と『関心が低い』(「あまり関心がない」+「全く関心がない」の合計)で見ると、『関心が高い』(58.4%)、『関心が低い』(40.8%)となっています。

回答者130

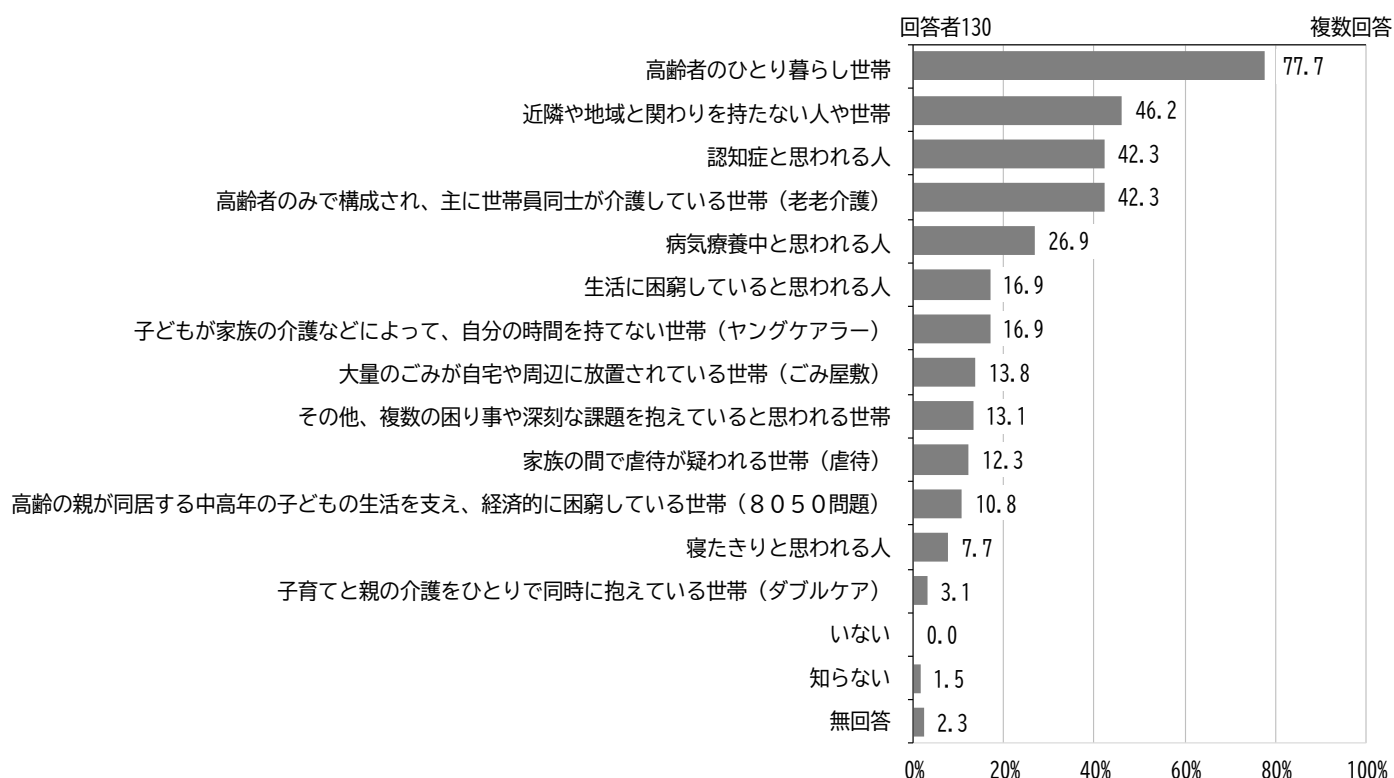
単数回答



単位 (%)

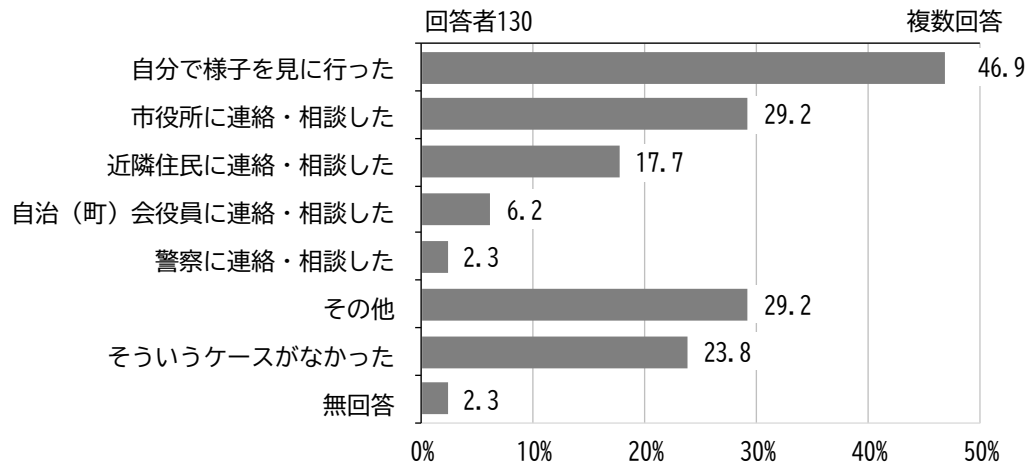
問8 担当地区に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。(いくつでも○)

担当地区に見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はあるかについて、「高齢者のひとり暮らし世帯」(77.7%)が最も多く、ついで「近隣や地域と関わりを持たない人や世帯」(46.2%)、「認知症と思われる人」(42.3%)と「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)」(42.3%)となっています。



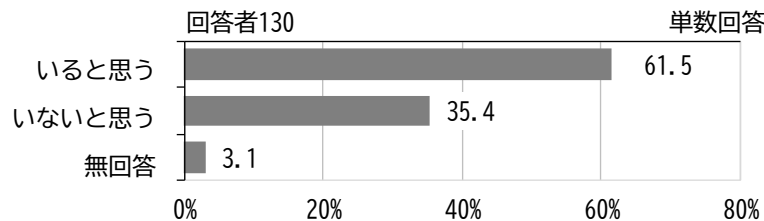
問9 直近の在任期間において、近隣と関わりを持たず、何らかの助けが必要と思われる世帯を発見した際、どのように行動しましたか。(いくつでも○)

直近の在任期間において、近隣と関わりを持たず、何らかの助けが必要と思われる世帯を発見した際、どのように行動したかについて、「自分で様子を見に行った」(46.9%)が最も多く、ついで「市役所に連絡・相談した」(29.2%)、「その他」(29.2%)となっています。



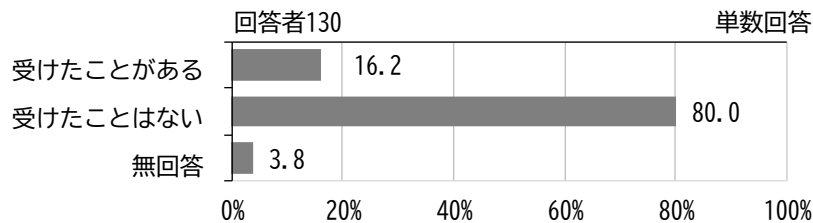
問10 担当地区に「ひきこもり」の傾向にあると思われる方はいますか(相談や情報提供の有無は問いません)。(1つに○)

担当地区に「ひきこもり」の傾向にあると思われる方はいるかについて、「いると思う」(61.5%)が最も多く、ついで「いないと思う」(35.4%)となっています。



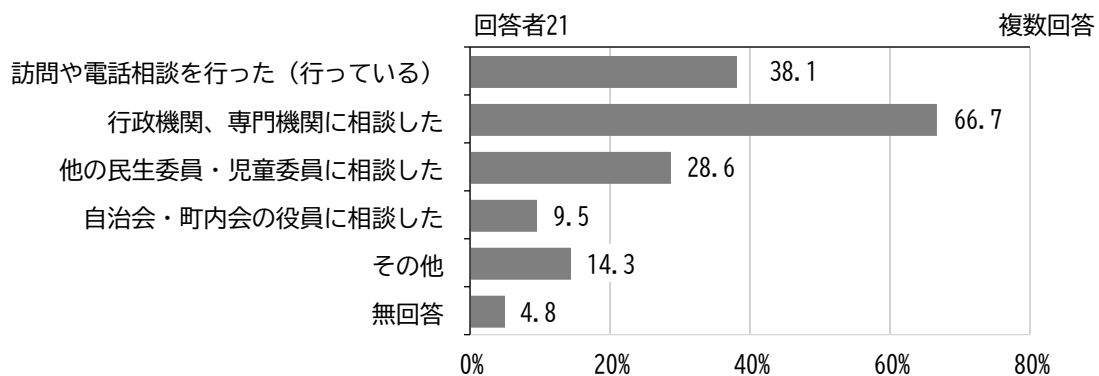
問11 直近の在任期間で、「ひきこもり」の傾向にある方やご家族などから、相談や情報提供を受けたことがありますか。(1つに○)

直近の在任期間で、「ひきこもり」の傾向にある方やご家族などから相談や情報提供を受けたことがあるかについて、「受けたことはない」(80.0%)が最も多く、ついで「受けたことがある」(16.2%)となっています。



付問 《問11で「受けたことがある」とお答えの方におたずねします》
相談を受けてから、どのように対応しましたか。(いくつでも○)

「ひきこもり」の傾向にある方やご家族などから相談や情報提供を「受けたことがある」と回答した方に、相談を受けてから、どのように対応したかを聞いたところ、「行政機関、専門機関に相談した」(66.7%)が最も多く、ついで「訪問や電話相談を行った(行っている)」(38.1%)、「他の民生委員・児童委員に相談した」(28.6%)となっています。



問12 「ひきこもり」の相談を受ける上で、あなたが困ること、課題と感ずることがあれば具体的に記入してください。(自由記述)

(最終報告に掲載)

3. 福祉について

問13 福祉に係る用語や市の事業等について知っていますか。(それぞれ1つに○)

福祉に係る用語、市や関係機関の事業等の認知度は、ア 成年後見制度について、「名前も内容も知っている」(47.7%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(40.0%)、「名前は知っているが、内容は知らない」(11.5%)となっています。

イ 生活困窮者自立支援制度について、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(50.0%)が最も多く、ついで「名前も内容も知っている」(29.2%)、「名前は知っているが、内容は知らない」(19.2%)となっています。

ウ 地域包括支援センターについて、「名前も内容も知っている」(86.2%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(13.8%)となっています。「名前は知っているが、内容は知らない」はいませんでした。

エ 西東京市社会福祉協議会について、「名前も内容も知っている」(80.8%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(19.2%)となっています。「名前は知っているが、内容は知らない」はいませんでした。

オ ほっとするまちネットワークシステム(通称ほっとネット)について、「名前も内容も知っている」(56.9%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(36.9%)、「名前は知っているが、内容は知らない」(6.2%)となっています。

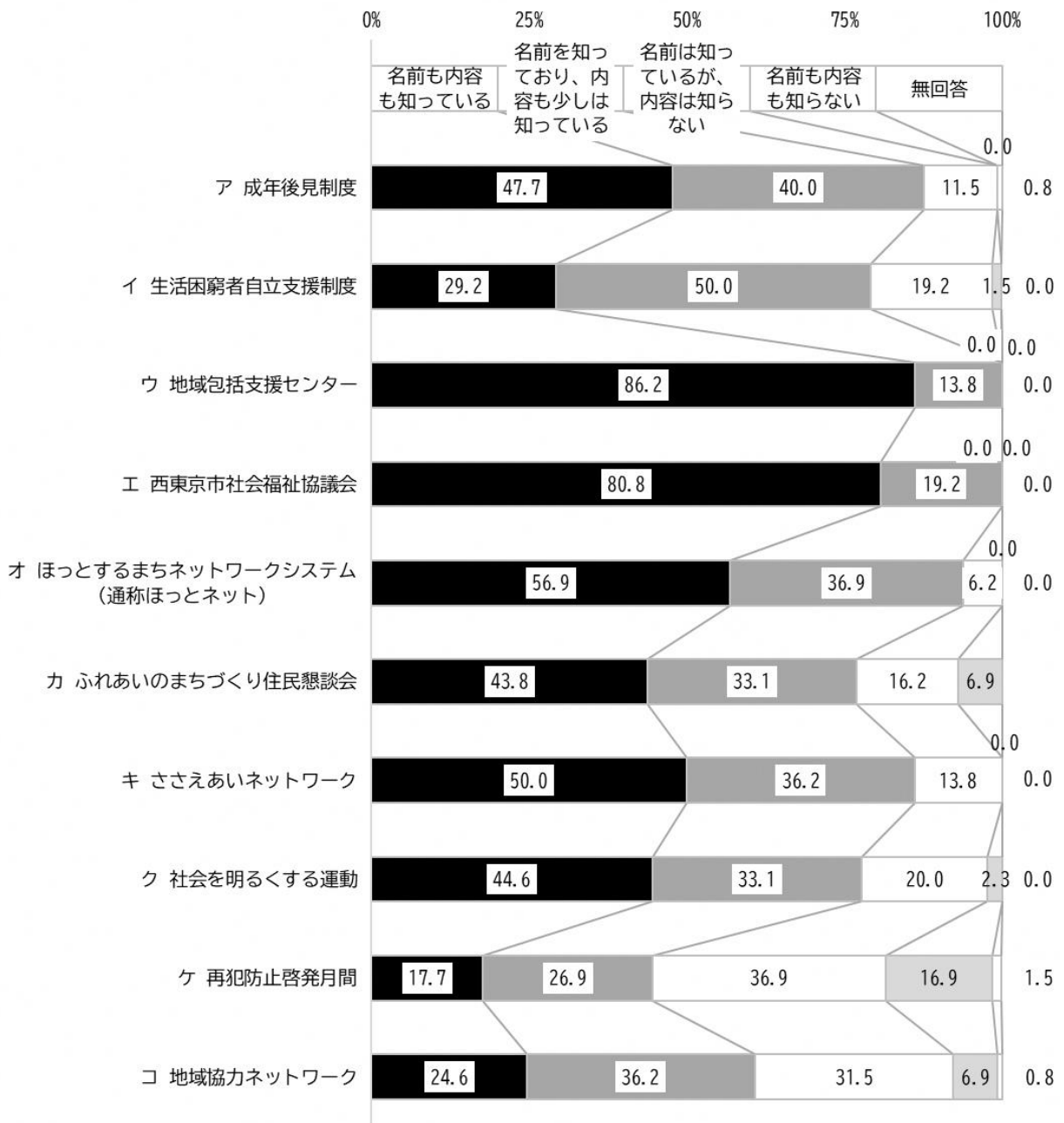
カ ふれあいのまちづくり住民懇談会について、「名前も内容も知っている」(43.8%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(33.1%)、「名前は知っているが、内容は知らない」(16.2%)となっています。

キ ささえあいネットワークについて、「名前も内容も知っている」(50.0%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(36.2%)、「名前は知っているが、内容は知らない」(13.8%)となっています。

ク 社会を明るくする運動について、「名前も内容も知っている」(44.6%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(33.1%)、「名前は知っているが、内容は知らない」(20.0%)となっています。

ケ 再犯防止啓発月間について、「名前は知っているが、内容は知らない」(36.9%)が最も多く、ついで「名前を知っており、内容も少しは知っている」(26.9%)、「名前も内容も知っている」(17.7%)となっています。

コ 地域協力ネットワークについて、「名前を知っており、内容も少しは知っている」(36.2%)が最も多く、ついで「名前は知っているが、内容は知らない」(31.5%)、「名前も内容も知っている」(24.6%)となっています。



問14 市や関係機関が実施している事業について、民生委員・児童委員として相談や連携をしたことはありますか。(それぞれ1つに○)

市や関係機関が実施している事業について、民生委員・児童委員として相談や連携をしたことはあるかを聞いたところ、ア ほっとネット推進員について、「知っているが、関わったことはない」(61.5%)が最も多く、ついで「知っており、関わったことがある」(34.6%)、「知らなかった」(1.5%)となっています。

イ ささえあい訪問協力員について、「知っているが、関わったことはない」(58.5%)が最も多く、ついで「知っており、関わったことがある」(40.8%)となっています。「知らなかった」はいませんでした。

ウ 地域福祉コーディネーターについて、「知っているが、関わったことはない」(73.1%)が最も多く、ついで「知っており、関わったことがある」(16.9%)、「知らなかった」(8.5%)となっています。

エ 生活支援コーディネーターについて、「知っているが、関わったことはない」(74.6%)が最も多く、ついで「知っており、関わったことがある」(12.3%)と「知らなかった」(12.3%)となっています。

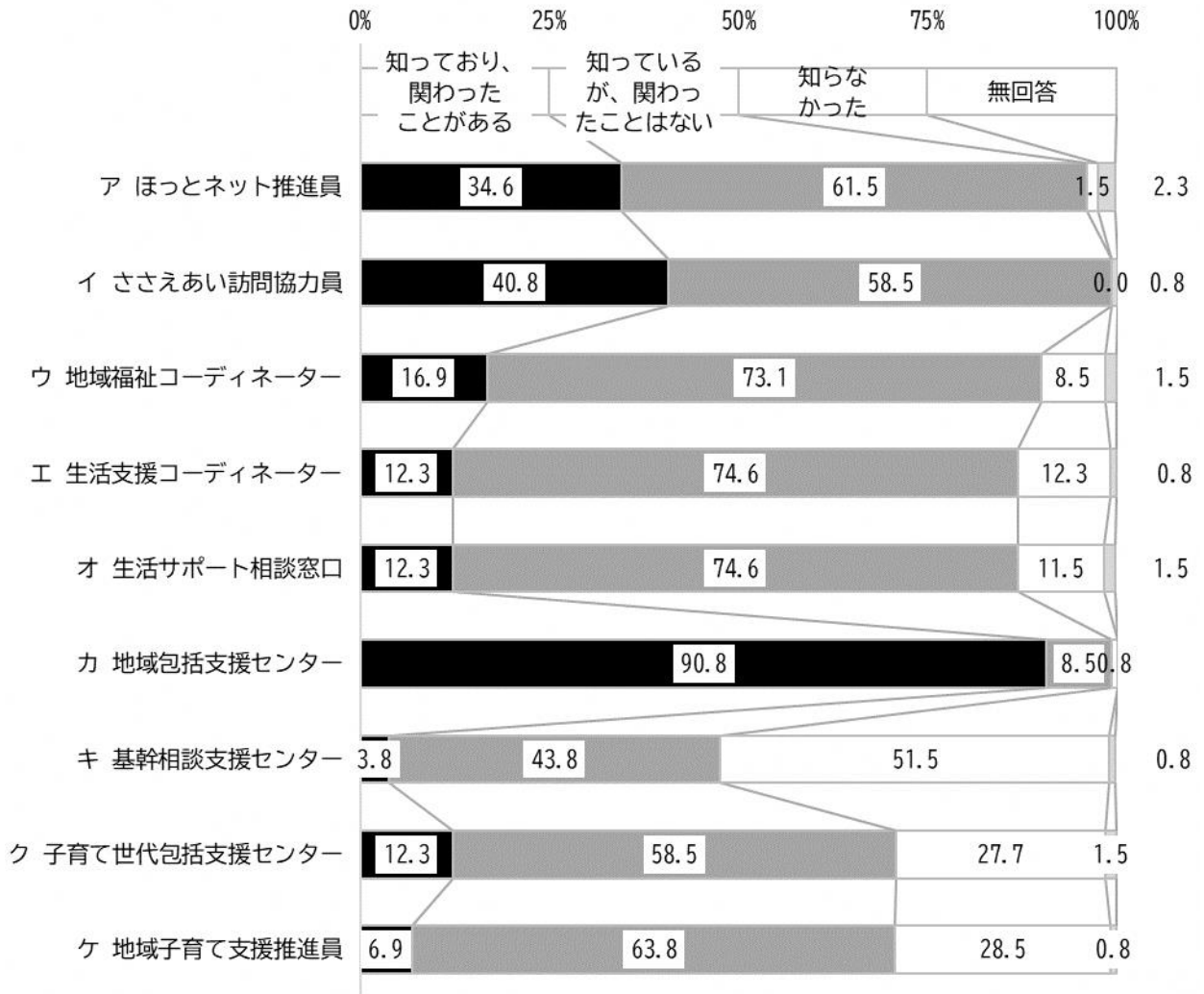
オ 生活サポート相談窓口について、「知っているが、関わったことはない」(74.6%)が最も多く、ついで「知っており、関わったことがある」(12.3%)、「知らなかった」(11.5%)となっています。

カ 地域包括支援センターについて、「知っており、関わったことがある」(90.8%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(8.5%)、「知らなかった」(0.8%)となっています。

キ 基幹相談支援センターについて、「知らなかった」(51.5%)が最も多く、ついで「知っているが、関わったことはない」(43.8%)、「知っており、関わったことがある」(3.8%)となっています。

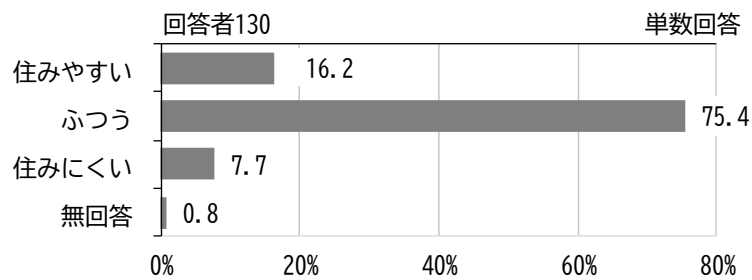
ク 子育て世代包括支援センターについて、「知っているが、関わったことはない」(58.5%)が最も多く、ついで「知らなかった」(27.7%)、「知っており、関わったことがある」(12.3%)となっています。

ケ 地域子育て支援推進員について、「知っているが、関わったことはない」(63.8%)が最も多く、ついで「知らなかった」(28.5%)、「知っており、関わったことがある」(6.9%)となっています。



問15 担当地区は、高齢者、障害者、子どもなど、誰にとっても住みやすい地域と思いますか。(1つに○)

担当地区は、高齢者、障害者、子どもなど、誰にとっても住みやすい地域と思うかについて、「ふつう」(75.4%)が最も多く、ついで「住みやすい」(16.2%)、「住みにくい」(7.7%)となっています。

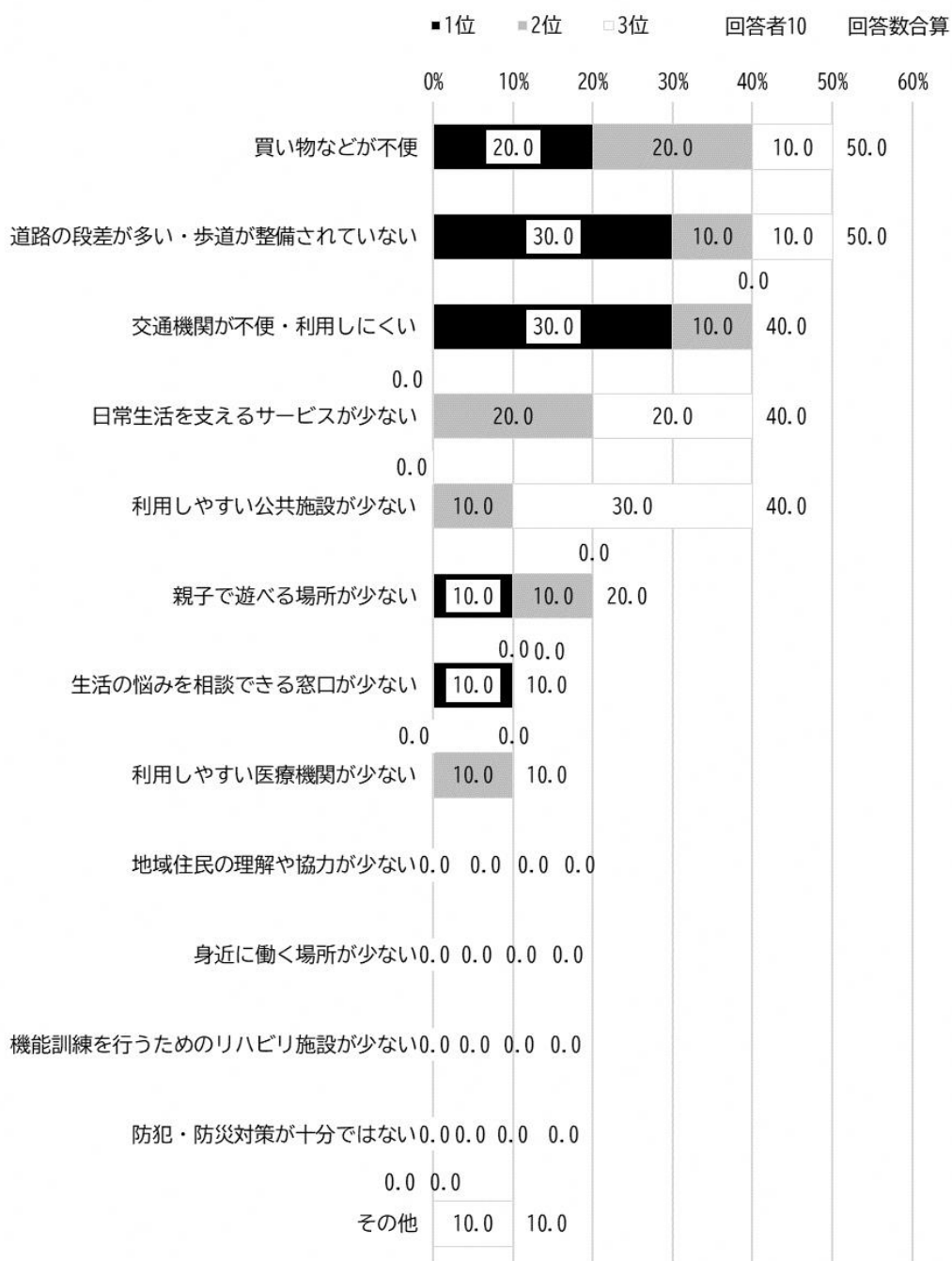


付問 《問15で「住みにくい」とお答えの方におたずねします》

住みにくいと思う理由は何ですか。【選択欄】から3つまで選んで、最も感じる順に記入してください。(選択番号を記入)

担当地区が誰にとっても住みやすいと思うかに「住みにくい」と回答した方に住みにくいと思う理由を、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位、2位、3位の回答数を合計すると、「買い物などが不便」(50.0%)と「道路の段差が多い・歩道が整備されていない」(50.0%)が最も多く、ついで「交通機関が不便・利用しにくい」(40.0%)となっています。

※該当する回答者が少数(10人)のため、1~3位の回答数合算グラフのみ掲載します。



問16 民生委員・児童委員の活動をする上で、以下の機関との連携をどのようにお考えですか。(それぞれ1つに○)

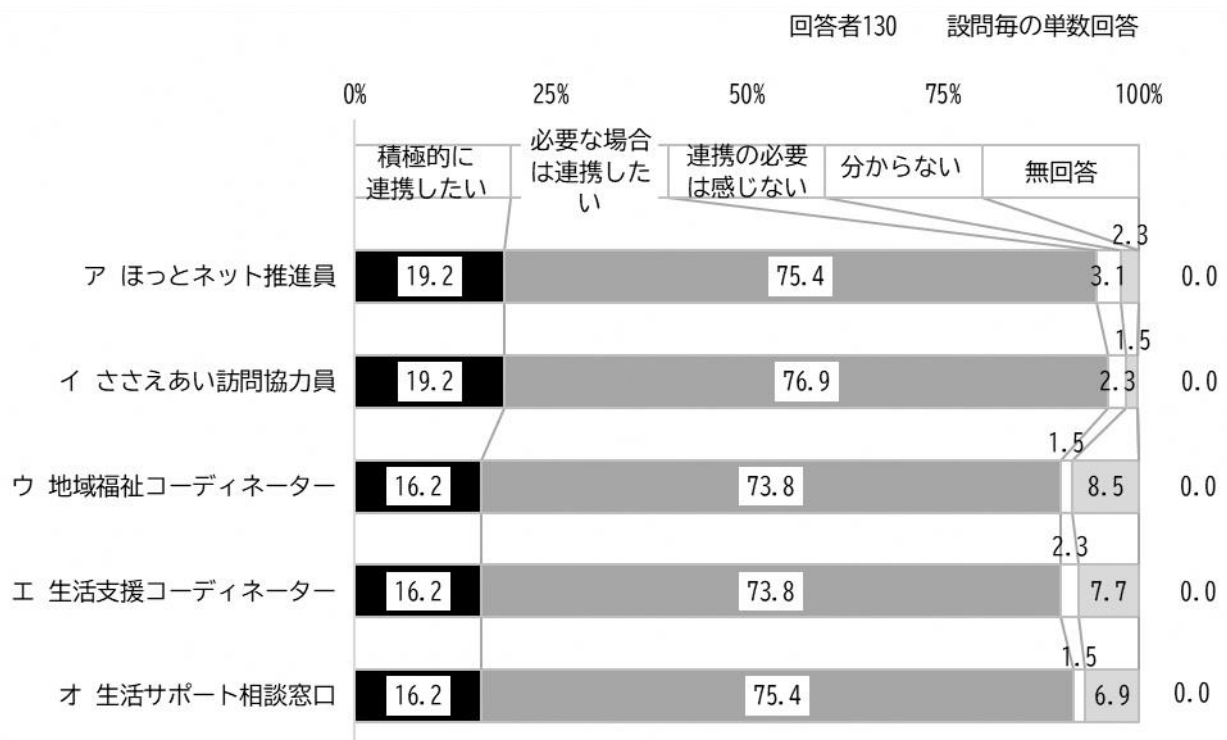
民生委員・児童委員の活動をする上で、他の機関との連携へのお考えを聞いたところ、ア ほっとネット推進員について、「必要な場合は連携したい」(75.4%)が最も多く、ついで「積極的に連携したい」(19.2%)、「連携の必要は感じない」(3.1%)となっています。

イ ささえあい訪問協力員について、「必要な場合は連携したい」(76.9%)が最も多く、ついで「積極的に連携したい」(19.2%)、「連携の必要は感じない」(2.3%)となっています。

ウ 地域福祉コーディネーターについて、「必要な場合は連携したい」(73.8%)が最も多く、ついで「積極的に連携したい」(16.2%)、「分からない」(8.5%)となっています。

エ 生活支援コーディネーターについて、「必要な場合は連携したい」(73.8%)が最も多く、ついで「積極的に連携したい」(16.2%)、「分からない」(7.7%)となっています。

オ 生活サポート相談窓口について、「必要な場合は連携したい」(75.4%)が最も多く、ついで「積極的に連携したい」(16.2%)、「分からない」(6.9%)となっています。



問17 民生委員・児童委員の活動をする上で、どのような情報を関係機関と共有したいですか。【選択欄】から3つまで選んで、最も共有したい順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

民生委員・児童委員の活動をする上で、どのような情報を関係機関と共有したいかを、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）」（42.3%）が最も多く、ついで「市の事業」（22.3%）、「地域で活動する団体の情報」（14.6%）となっています。

2位は「地域で活動する団体の情報」（23.8%）が最も多く、ついで「福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）」（20.8%）、「学校の情報」（16.9%）となっています。

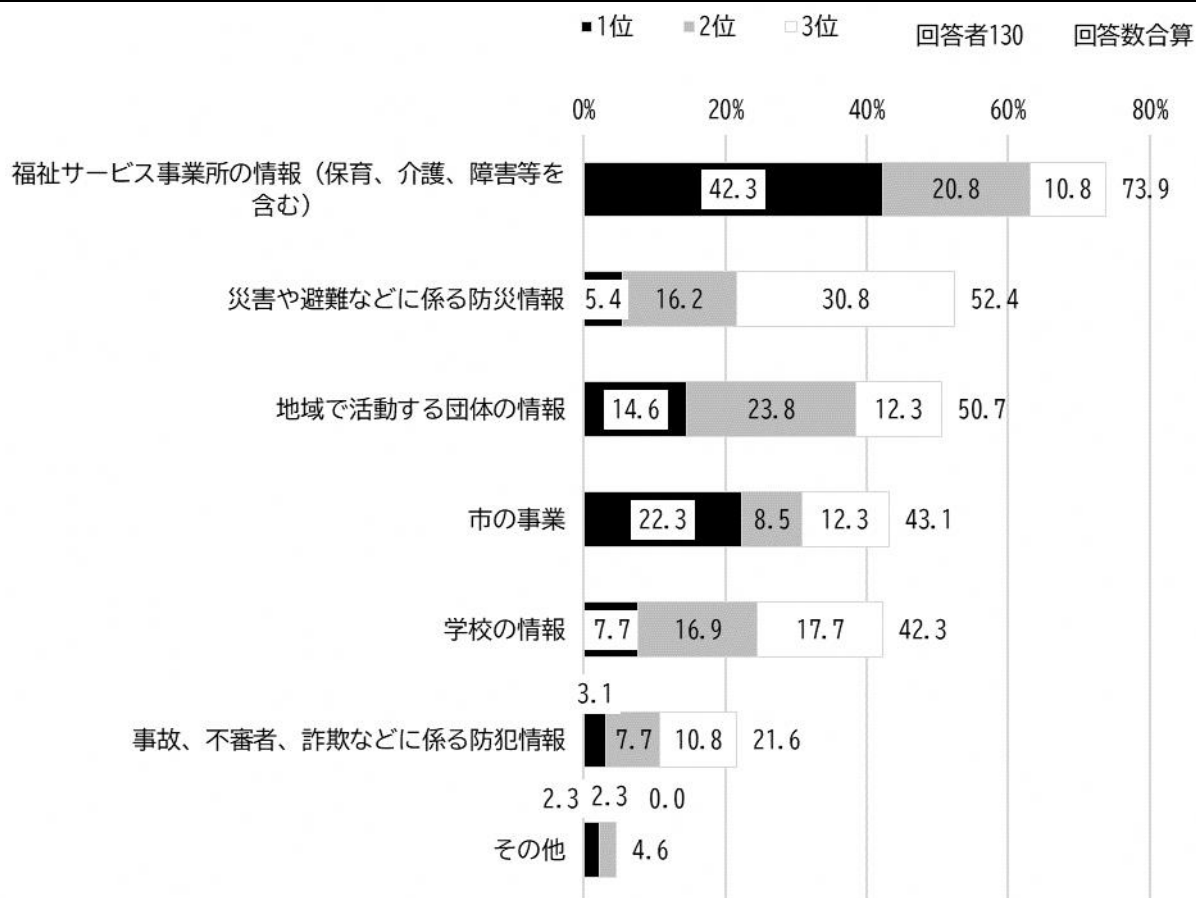
3位は「災害や避難などに係る防災情報」（30.8%）が最も多く、ついで「学校の情報」（17.7%）、「市の事業」（12.3%）となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）（42.3）	地域で活動する団体の情報（23.8）	災害や避難などに係る防災情報（30.8）
2番目に多い回答	市の事業（22.3）	福祉サービス事業所の情報（保育、介護、障害等を含む）（20.8）	学校の情報（17.7）
3番目に多い回答	地域で活動する団体の情報（14.6）	学校の情報（16.9）	市の事業（12.3）

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

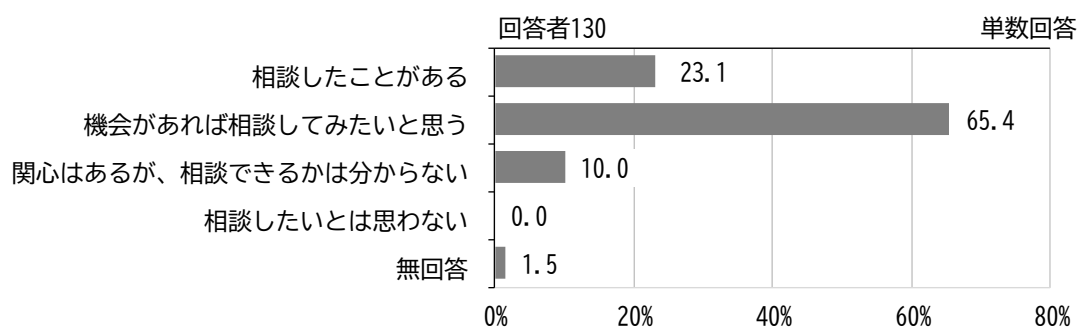
1位、2位、3位の回答数を合計すると、「地域で活動する団体の情報」(73.9%)が最も多く、ついで「事故、不審者、詐欺などに係る防犯情報」(52.4%)、「市の事業」(50.7%)となっています。



4. 「ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）」について

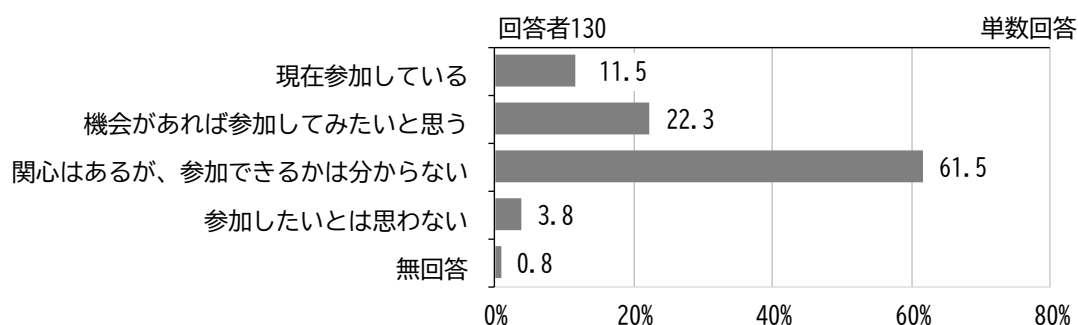
問18 地域の皆様からの、生活上の困り事の相談を受け付ける窓口として、「ほっとネットステーション」を設置しており、「地域福祉コーディネーター」が常駐しております。今後活動の中で地域の方の困り事を聞いたときに、相談してみたいと思いますか。（1つに○）

今後の活動の中で地域の方の困り事を聞いたとき、生活上の困り事の相談を受け付ける窓口である「地域福祉コーディネーター」に相談してみたいと思うかについて、「機会があれば相談してみたいと思う」（65.4%）が最も多く、ついで「相談したことがある」（23.1%）、「関心はあるが、相談できるかは分からない」（10%）となっています。



問19 ほっとするまちネットワークシステム（通称 ほっとネット）の中で、地域の問題や課題を発見し、解決のために協力して下さる市民の方（ほっとネット推進員）を募集しています。今後、参加してみたいと思いますか。（1つに○）

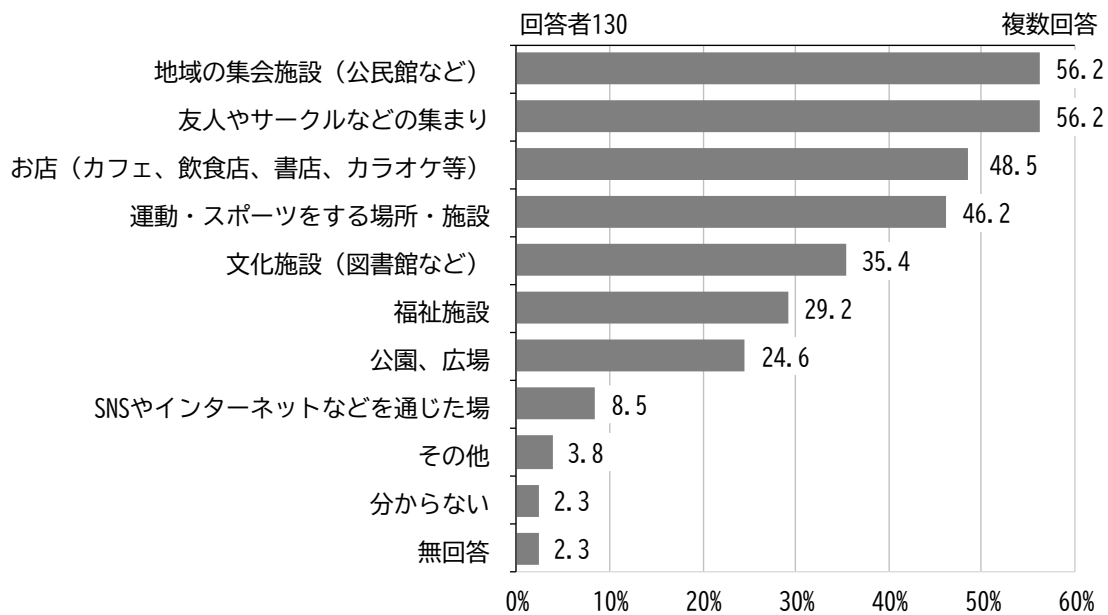
地域の問題や課題を発見し解決のために協力して下さる市民活動（ほっとネット推進員）に、今後、参加してみたいと思うかについて、「関心はあるが、参加できるかは分からない」（61.5%）が最も多く、ついで「機会があれば参加してみたいと思う」（22.3%）、「現在参加している」（11.5%）となっています。



5. これからの取組について

問20 住民が孤立せず、孤独感を感じないよう、気兼ねなく過ごせる「居心地の良い場所」として、担当地区にどのような場が増えるとよいと思いますか。(いくつでも○)

住民が孤立せず、孤独感を感じないよう、気兼ねなく過ごせる「居心地の良い場所」として、担当地区にどのような場が増えるとよいと思うかについて、「地域の集会施設（公民館など）」（56.2%）と「友人やサークルなどの集まり」（56.2%）が最も多く、ついで「お店（カフェ、飲食店、書店、カラオケ等）」（48.5%）となっています。



問21 安心して暮らせるまちのために、住民参加の取組として、どのような活動が重要だと思いますか。【選択欄】から3つまで選んで、最も重要な順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

安心して暮らせるまちのために、住民参加の取組としてどのような活動が重要だと思うかを、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「地域での声かけ、見守り活動」(39.2%)が最も多く、ついで「高齢者・親・子どもなどの世代間交流」(10.8%)、「災害時に助け合うための関係づくり」(10.0%)となっています。

2位は「災害時に助け合うための関係づくり」(16.9%)が最も多く、ついで「高齢者・親・子どもなどの世代間交流」(15.4%)、「住民が参加しやすい場所、拠点づくり」(13.8%)となっています。

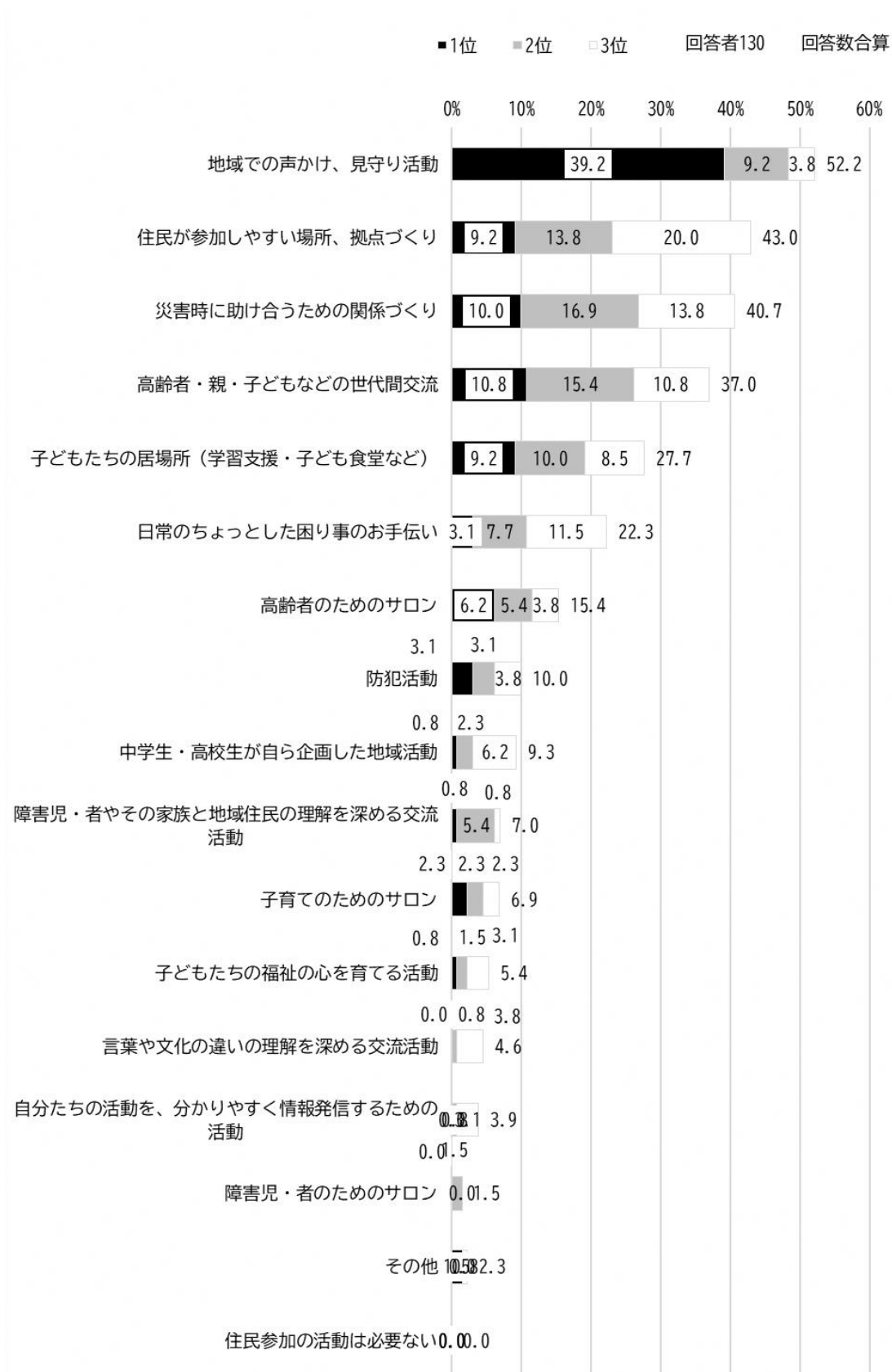
3位は「住民が参加しやすい場所、拠点づくり」(20.0%)が最も多く、ついで「災害時に助け合うための関係づくり」(13.8%)、「日常のちょっとした困り事のお手伝い」(11.5%)となっています。

(%)

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	地域での声かけ、見守り活動 (39.2)	災害時に助け合うための関係づくり (16.9)	住民が参加しやすい場所、拠点づくり (20.0)
2番目に多い回答	高齢者・親・子どもなどの世代間交流 (10.8)	高齢者・親・子どもなどの世代間交流 (15.4)	災害時に助け合うための関係づくり (13.8)
3番目に多い回答	災害時に助け合うための関係づくり (10.0)	住民が参加しやすい場所、拠点づくり (13.8)	日常のちょっとした困り事のお手伝い (11.5)

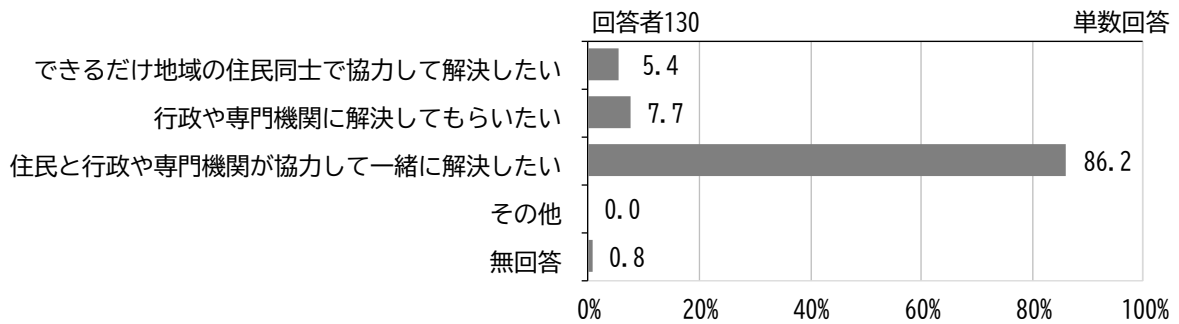
<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「地域での声かけ、見守り活動」(52.2%)が最も多く、ついで「住民が参加しやすい場所、拠点づくり」(43.0%)、「災害時に助け合うための関係づくり」(40.7%)となっています。



問22 今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。(1つに○)

今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思うかについて、「住民と行政や専門機関が協力して一緒に解決したい」(86.2%)が最も多く、ついで「行政や専門機関に解決してもらいたい」(7.7%)、「できるだけ地域の住民同士で協力して解決したい」(5.4%)となっています。



問23 市の地域福祉推進のために重要な取組は何ですか。【選択欄】から3つまで選んで、最も重要な順に記入してください。

(1位～3位の欄に選択番号を記入する回答方式)

1位	2位	3位

市の地域福祉推進のために重要な取組を、1位、2位、3位の順位を付けて聞いたところ、1位は「地域における連携体制づくり」(27.7%)が最も多く、ついで「福祉活動を行う人材の発掘」(12.3%)、「出会いの場、話し合いの場づくり」(10.8%)となっています。

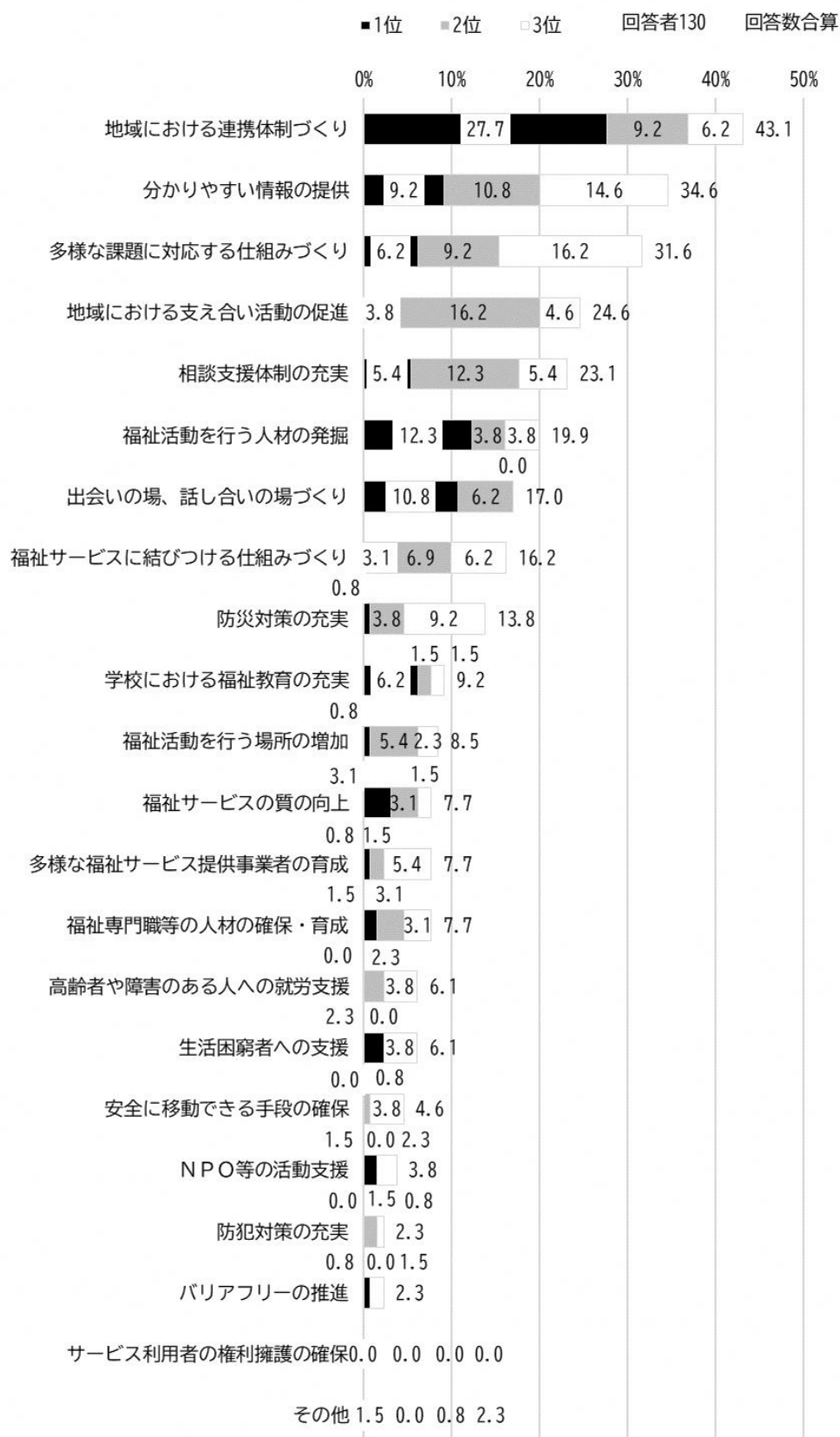
2位は「地域における支え合い活動の促進」(16.2%)が最も多く、ついで「相談支援体制の充実」(12.3%)、「分かりやすい情報の提供」(10.8%)となっています。

3位は「多様な課題に対応する仕組みづくり」(16.2%)が最も多く、ついで「分かりやすい情報の提供」(14.6%)、「防災対策の充実」(9.2%)となっています。

	1位の回答	2位の回答	3位の回答
最も多い回答	地域における連携体制づくり (27.7)	地域における支え合い活動の促進 (16.2)	多様な課題に対応する仕組みづくり (16.2)
2番目に多い回答	福祉活動を行う人材の発掘 (12.3)	相談支援体制の充実 (12.3)	分かりやすい情報の提供 (14.6)
3番目に多い回答	出会いの場、話し合いの場づくり (10.8)	分かりやすい情報の提供 (10.8)	防災対策の充実 (9.2)

<1位、2位、3位の回答数を合計> 無回答は非表示

1位、2位、3位の回答数を合計すると、「地域における連携体制づくり」(43.1%)が最も多く、ついで「分かりやすい情報の提供」(34.6%)、「多様な課題に対応する仕組みづくり」(31.6%)となっています。



問24 以下のテーマについて、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

(自由記述)

(最終報告に掲載)

(1) みんなで助け合い・支え合う地域をつくるためのご意見やアイデア

(2) 地域福祉を進める取組について、ご意見、ご提案があれば教えてください。

IV 経年比較

1. 一般市民

(最終報告に掲載)

2. 民生委員・児童委員

(最終報告に掲載)